

# 日本古典籍調査要領

国文学研究資料館

学術資料部

(二〇一八年五月)

## 目次

一、調査カード等の種類

二、記入要領

(一) 細目調査カード (NS)

(二) 細目調査補助カード

(三) 書目調査カード (NC)

(四) 文献資料調査記録

(五) 調査概要

## 附録

月異名表

年号一覧

年号干支表

装訂等参考資料 (国文研通常展示「和書のさまざま」リーフレットより)

## 一、調査カード等の種類

調査の目的（撮影を前提とする調査かどうか）と媒体（紙か電子データか）により、四種類の調査カードがあります。どのカードを使用するかについては、調査先の所蔵者あるいはコレクションごとに、当館の調査・収集の方針に基づいて決定しております。

資料の撮影を前提とする場合は書目調査カードを、それ以外の場合は細目調査カードを使用します。媒体は基本的に電子データを使用しますが、調査先の閲覧条件等により電子機器が使用できない場合は、紙カードを使用します。紙媒体と電子媒体で記入項目に違いはありません。

資料の所蔵者の許諾が得られた場合、調査カードの内容（及び紙カードの場合その画像）を当館データベースに収録し、各カードの調査者名を除いてインターネットで公開いたします。

個々の資料に関する調査カードのほか、一回の調査ごとに各調査者と調査全体の結果を報告していただくための書式もあります。

### （1）細目調査カード（NS／DS）

二〇一七年度までの細目調査カード（Sカード）を改訂した書式です。

### （2）細目調査補助カード

細目調査カード（または書目調査カード）に記入しきれない事項のある場合、こちらを併用します。

### （3）書目調査カード（NC／DC）

資料の収集を前提とし、必要最小限の項目に絞ったカードです。

二〇一七年度までの書目カード（Cカード）を改訂した書式です。

### （4）文献資料調査記録（以降、「調査記録」）

一回の調査実施につき、調査日程や採取したカードの枚数など、調査者ことの調査結果の概要を記入する書式です。

### （5）調査概要

一回の調査実施につき、調査日程や特筆すべき調査成果など、その回の調査全体の概要を記入する書式です。

## 二、記入要領

本要領では、各項目について紙媒体の調査カード（NS・NC）での記入方法を説明します。電子媒体の調査カード（DS・DC）の記入については、本要領の内容に加えて、操作マニュアルも別途ご参照ください。

全般的な記入要領は次の通りです。

- ・記入は濃い鉛筆を使用し、読みやすくハッキリとした楷書体の文字で書いてください。調査カードは、資料所蔵者の許諾を得た上でその記入内容及び画像を公開し、一般の利用に供するものです。
- ・漢字については、新字体のあるものは原則としてそれを用いることとしますが、特に原本の字体を示す必要がある場合などは、正字体や異体を用いても差し支えありません。
- ・繰り返し記号（オドリ字）は、該当する文字に改めず、原本の通り記入してください。
- ・誤記の取り消しは、取消線（二重線）または消しゴムのいずれでも構いません（修正液・修正テープの使用はお控えください）が、最終的な記入内容が明確になるようご注意ください。
- ・数字の記入は、寸法や冊数など数値を示す場合は算用数字を使用し、巻次など資料の記述を転記する場合は原文表記のままとしてください。
- ・場所を示す場合、第二丁表面を「2才」、第二丁裏面を「2ウ」のように略記して構いません。

・複数冊の資料の場合、各項目の要領に特に指示のある場合を除き、基本的に第一冊（第一丁）など、その資料の先頭または代表とみなせるものについて記入し、第二冊以降に関しては第一冊と著しく異なるなど特に記録の必要があると判断した場合に限り「補記」欄に記入してください。

・各項目の記入欄に収まりきらない場合や所定の選択肢以外を記入する場合、適宜「補記」欄を使用してください。「補記」欄に収まりきらない場合は、補助カードを使用してください。

・記入すべき事柄が無い場合は、記入忘れと区別するため空欄にせず、「/」（斜線）を記入してください（「ナシ」「無し」等の文字は記入しないでください）。

・資料の取り扱いについては、調査先である所蔵者あるいはコレクションの閲覧条件等を遵守し、先方担当者の指示に従ってください。

・各カードの「所蔵者」と「調査者」は予め当館で記入または押印します。「調査年月日」は調査者において記入してください。

(一) 細目調査カード (NS)

(1) 写刊

調査資料が写本か刊本か、該当する文字を○で囲んでください。写刊取り混ぜの場合、両方を○で囲んでください。また刊本の場合は、「整版・古活・木活・活版」のいずれか該当するものを○で囲んでください。「整版」は「整版本」、「古活」は「古活字本」、「木活」は「木活字本」の略です。「活版」は江戸末期以後の西洋式活版印刷を指します。いずれにも該当しない場合、欄外の余白または「補記」欄に具体的に記してください。このほか、写本で版本の臨模や版下本など、写刊の形態に関して特に記録する必要があると判断した情報があれば、余白または「補記」欄に記入してください。

(2) WID

WIDとは、当館「日本古典籍総合目録データベース」(以降、「古典籍DB」)上での著作(作品)番号です。資料が古典籍DBのどの著作に該当するか同定できた場合、その著作のWIDを算用数字で記入してください。同定の際は、同名異書などに注意し、よく確認してください。

WIDが同定できた場合、次の記入項目について古典籍DBと重複する内容は記入を省略できます。

- ・ 著者・編者等
- ・ 残存が「全」の場合の「現有巻数」

(3) 所蔵者整理書名

所蔵者がその資料に与えている名称です。蔵書目録等に記載されている名称を指します。

調査資料に書名が無く、所蔵者が付けた名称がある場合はそれを記入してください。それ以外は、外題や内題と大幅に異なる場合のみ記入してください。

(4) 外題

調査資料の表紙に記された書名を記入してください。また、記載の状態について、それぞれ該当するものを○で囲んでください。

(簽・直) 題簽が貼られているか、表紙に直接書かれている(打付書)もしくは直接刷られているか、選択してください。

(書・刷) 外題が書写されたものか、印刷されたものか、選択してください。

(原・後) 題簽の場合、それが原のものか、後に補われたものか、選択してください。打付書の場合、本文の書写と同時点のもの(原)か、後代のもの

(後) か、選択してください。

(左・中) 外題の位置が表紙の左肩か、中央か、選択してください。その他の場合、「補記」欄に記入してください。

(単・双・無) 題簽の場合、単辺であるか、双辺であるか、無辺であるか、選択してください。

調査資料が二冊以上ある場合、次のように記入してください。

・ 巻次のみが異なる場合、二巻目以降の巻次を( )に入れて第一巻に続ける。

例) 平家物語 巻第一(一十二)

・ 冊により表記が異なる場合、外題が確認できる先頭の資料に関する一種類を「外題」欄に記入し、二種類目以降は「補記」に記入する。

例) 第一冊の「竹窓随筆」を「外題」欄に、第二冊の「竹窓二筆」、第三冊の「竹窓三筆」はそれぞれ「補記」欄に記入。

例) 第一冊の「和漢朗詠集 上」を「外題」欄に、第二冊の「和漢朗詠抄 下」は「補記」欄に記入。

#### (5) 内題

調査カードにおける「内題」は、本文の前にある巻首題を指します。「外題」と同様に書名を記入してください。内題に振り仮名がある場合は、省略せずに記してください。外題等についても同様です。

振り仮名は、書名の後に◇に入れて示してください(書名に直接振り仮名を付いたり、書名の途中に◇を挟んだりしないでください)。その際、書名に振り仮名の無い文字があれば、一字に対して「・」を一つ書いてください。

例) 謡曲画誌うたひのゑほん◇

例) 秋の夜長物語へあき・よなかものかたり◇

例) 烹雑の記へにまぜ・・・◇

巻首題を欠く場合、次に掲げる部位に記載された書名から一つを記入するとともに、記入欄の「内題」に取消線を引き、記入した書名の部位を記入してください。

調査資料が二冊(二巻)以上ある場合の記入は、外題の例に準じてください。

見返し題 主として版本で、前表紙の見返しに記された(刷り込まれた)題を指します。

扉題 扉に記された題を指します。扉の裏に記されている場合、「扉裏」としてください。

序題 序の冒頭に記された題を指します。

跋題 跋の冒頭に記された題を指します。

・ 目録題 目録の冒頭に記された題を指します。  
・ 尾題 本文の末尾に記された題を指します。

#### (6) 版心(ノド)

版心は一丁分の版の中央部分で袋綴本の場合は丁の折り目に当たり、柱と呼ばれることもあります。第一冊の本文第一丁ないしそれに準ずるものについて記入してください。黒口・魚尾・版心書名(柱題)・丁付など、上から順に言葉で記述してください。丁裏のノドなど、版心以外の箇所は書名・丁付等のある場合もこの欄を使用して記録してください。

例) 黒口・下向き花魚尾・「本朝文粹巻一」・丁付・上向き花魚尾・黒口

例) (丁裏ノド下方)「葛上ノ一」

#### (7) 合集状況

調査資料がいわゆる合集(合綴・合写・合刻本)であるときは、「合」の字を○で囲んでください。

調査カードの記録は、所収作品単位ではなく、現在の形態による書籍単位で行いますので、合集の場合でも、資料一点につき調査カード一枚です。

・ 合綴 別々に書写もしくは刊行された複数の資料を一冊に綴じ合わせたもの。

・ 合写／合刻 複数の作品を一まとめに書写もしくは刊行したもの。

所収作品の詳細は、次のいずれかの方法で記入してください。

・ 複数の所収作品名が列記された外題がある場合、それを「外題」欄に記

入する。

・巻首題等で、複数の所収作品名が確認できた場合、「内題」欄及び「補記」欄にそれぞれ記入する。

・所収作品それぞれのWIDを「WID」欄に列記する。

※古典籍DBにおいて、合集の資料全体を指す著作が確認できた場合、そのWIDのみで結構です。

・「補記」欄に「〇〇と△△の合刻」のように記入する。

#### (8) 整理番号

調査資料の所蔵者がその資料に与えている出納請求番号などを指します。

使用されている記号・番号をそのまま記入してください。なお未整理資料に番号を付けながら調査する場合は、その番号を記入してください。

未整理で調査時にも番号を付与しない場合、「未整理」と記入してください。ただし、整理番号は無くとも一応の整理がついていて、書庫内の棚や箱などの配置順序が定まっている場合、棚番号・箱番号や段数、配列順序等を記入してください。

#### (9) 著者・編者等

作品の著者や編者、校訂者、絵師・画工などの人名を記入し、必要に応じて「著」「撰」などの役割を書き添えてください。

「WID」が判明し、データベースに登録されている著者・編者等と重複する場合は記入を省略して構いません。

#### (10) 写刊年時

調査資料の写刊の年時が具体的に判明する場合、それを記入してください。

年時の表記は元号と算用数字の年の組み合わせを用いることとし、干支等で記されている場合、数字に改めてください。元年は「1年」としてください。推定の場合は、「〇〇年頃」「△△年か」のように記入してください。

具体的な年時が不明の場合、「奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町(安土桃山時代を含む)・江戸・明治」の時代区分で記入し、かつ可能な限り「初期・中期・後期・末期」等の細かい区分を付してください。場合により「元和寛永頃」のような形で結構です。

時代を細かく区分するときは、以下を目安にしてください。

平安時代：ほぼ一〇〇年ごとに、初期・中期・後期・末期(院政期)

鎌倉時代：ほぼ三〇〇四〇年ごとに、初期・中期・後期・末期

室町時代：ほぼ五〇年ごとに、初期・中期・後期・末期(安土桃山時代を含む)

江戸時代：ほぼ九〇年ごとに、前期・中期・後期

なお奈良時代・南北朝時代・明治時代については細分に及びませんが、個人の判断によって前期・後期等に分けることは差し支えありません。

#### (11) 筆者／版元

写本の場合、筆者が判明するときは記入してください。推定の場合は「〇〇(人名)か」、極札などによる伝称の場合は「伝△△筆」のように記入してください。著者・編者の自筆の場合、その旨も記してください。

版本の場合、末尾や見返し等の刊記により版元が判明するときは記入してください。版元が複数の場合、末尾の書肆名のみを採り「菱屋孫兵衛等3店」のように記してください。

#### (12) 料紙

調査資料の本文料紙の材質について、該当する文字を○で囲んでください。該当するものが無い場合、欄内の余白または「補記」欄に記入してください。なお斐と楮を交ぜた紙の場合、「斐楮交漉紙」と記入してください。

・楮 楮（こうぞ）から作る楮紙を指します。表面がざらざらして、繊維が太く丈夫です。版本の大部分はこの紙です。楮紙を打った打紙

の場合は、「楮」を○で囲んだ上で「打紙」と記してください。

楮紙の一種で通常の紙と異なる「檀紙」「奉書紙」などがありますので、特定できた場合、欄内の余白または「補記」欄に記入してください。

・鳥の子 雁皮（斐）から作る紙のうち、厚いものを指します。繊維が細く

短く、表面は滑らかで光沢があります。

・薄様 雁皮（斐）から作る紙のうち、薄いものを指します。繊維が細く

短く、表面は滑らかで光沢があります。

・極 三極（みつまた）から作る極紙を指します。楮紙よりやや光沢があります。江戸中期以降に普及しました。

色・文様等がある場合には、余白または「補記」欄に「色替り」「黄檗染め」「内曇り」「罨紙」「雲母引き」「具引き」（胡粉を引いたもの）「菊花紋透かし」のように記してください。

### （13）表紙

調査時点の状態で、表紙と認められるものについて、記入してください。

（原・後）表紙が原装（本文の書写・刊行と同時に付されたもの）か、後に補われたものか、該当する文字を○で囲んでください。

原表紙の上に新しく表紙を付してある場合、この欄には現在の（新しい）表紙について記し、原表紙については「補記」欄に記入してください。

表紙の色・文様や材質等についても記入してください。色・文様は、「渋引き」「縹色布目」「灰汁色地縁唐草文様」「紺地金欄菱織文」のように記してください。材質は、紙表紙以外の絹表紙・金欄表紙など、特記すべき場合に記入してください。

本文料紙と同質の紙が用いられている場合には、「本文共紙」に○を付けてください。

### （14）見返し

（原・後）見返しが原装（本文の書写・刊行と同時に付されたもの）か、後に補われたものか、該当する文字を○で囲んでください。

色・文様があつたり、材質に特記すべきことがあつたりしたら、「金箔型押し」「鳥の子、金泥海賦文様」のように記入してください。

本文料紙と同質の紙が用いられている場合には、「本文共紙」に○を付けてください。

なお見返しが剥がれて遊紙のようになっているものは、見返しとして扱ってください（紙数には含みません）。

### （15）書入

調査資料における書入の有無について、該当するものを○で囲んでください。ここでの書入にはミセケチ訂正や校合等を含みます。

「有」の場合、次についてそれぞれ該当するものを○で囲んでください。書入の所在が限定されている場合、余白または「補記」欄に「2ウまで」「第1冊のみ」のように所在を記入してください。

・同筆／別筆 写本の場合、本文と同筆か別筆かを示してください。

写本の別筆もしくは版本の場合、書入者が分かるときは「補記」欄に記してください。

・墨／朱 書入文字の色が墨（黒）か朱かを示してください。

その他の色の場合、「藍」「代赭」のように具体的に記してください。

#### （16） 絵

調査資料における絵の有無を選択し、「有」の場合はその種類について該当するもの全てを○で囲んでください。ただし、丹緑本（墨刷の挿絵に丹・緑・黄で彩色を施した本）では「丹緑」のみを○で囲んでください。

絵の数について、次の要領で記入してください。複数冊の資料の場合は、各冊ごとに記してください。

「卷子本・折本」

○図

全部 …… 画卷など全体が絵で、明確な切れ目が無い場合

「冊子本」

半葉○図

見開き○図

一丁○図 …… 丁の表裏で一図になる場合

全丁 …… 絵本・画帖など全丁に絵がある場合

各冊平均○図（○図前後） …… 大部な絵入り版本など、略記する場合

#### （17） 用字

調査資料の本文と書入・付訓等の用字について、それぞれ該当するものを全て○で囲んでください。「漢」は漢字、「片」は片仮名、「平」は平仮名を指します。

「漢」「片」「平」以外の用字や符号、例えば本文に関しては、梵字・ローマ字・キリル文字（ロシア文字）等、書入・付訓等に関しては、ヨコト点・声点・節付記号等がある場合、「補記」欄に記入してください。

#### （18） 状態

調査資料の保存状態について、「良」「並」「不良」のうち該当するものいずれか一つを○で囲んでください。「不良」の場合、その理由について次のうち該当するもの全てに○を付けてください。このほかの不良がある場合、「糸切れ」等具体的に記入してください。なお、状態不良が軽微な場合、○を付けないとも結構です。

・破 破損が著しい。

・汚 汚損が著しい。水濡れによる変色なども含みます。

・疲 疲弊（くたびれ）が著しい。

・虫 虫損が著しい。虫食孔が多いか、その占める面積が大きい。鼠の食い跡（鼠害）は「鼠」として別に記入してください。

虫損等に対して補修が施されている場合、「補修アリ」に○を付けた上で補修後の状態に基づいて記入してください。例えば、虫損が補修されていて良好な状態とみなせる場合、「良」と「補修アリ」に○を付けてください。「虫」など補修以前の不良状況については、必要に応じて記入してください。

不良箇所が資料の全体ではなく、一部分に限られる場合、「補記」欄に「表

紙のみ汚損」や「第3～6丁のみ破り捨て」等と具体的に記してください。  
状態不良のため撮影が困難あるいは不可能と判断される場合、「撮影困難」あるいは「撮影不能」と記入してください。

#### (19) 箱・帙・袋等

調査資料に箱・帙・袋等が付属している場合、それぞれ該当する文字を○で囲み、その数量や材質等を記入してください。調査時点の現状を記入するものとし、新しい箱や帙等も対象となります。材質については、主に箱に関して桐・螺鈿・梨地漆塗等を記入してください。「袋」は、主として版本を版元が販売する際に用いた書袋を指します。近現代の洋封筒や新聞紙等で包装されている場合、「洋封筒」や「新聞紙包み」等と記してください。

#### (20) 間紙

袋綴本や折紙を用いて装訂した本（折紙綴・折紙列帖装・折紙双葉装）の撮影時に、紙が薄く丁の反対側の文字が透けるおそれがある場合や虫食孔のある場合、袋綴本ならば袋状の部分、折紙を用いた本ならば折紙の内側に白紙を挿し入れて撮影することがあり、これを間紙と言います。調査資料を撮影する際に間紙が必要か否か判断し、該当する文字に○を付けてください。間紙が必要な箇所が資料の全体ではなく、一部分に限られる場合、「補記」欄に「23丁まで」「第二冊のみ」等と具体的に記してください。

要否については、次の点などを考慮してご判断ください。判断に迷う場合は、「要」としてください。

- ・文字面にかかった虫食い孔や焦げ孔のある場合は「要」
- ・撮影面を軽く押さえた際に（もしくは押さえる前から）裏面の文字が字形として透けて見えてくる場合は「要」

#### (21) 寸法

原則として調査資料の第一冊の表紙の縦・横の寸法を、センチメートルで小数点以下第一位まで記入してください。表紙と本文料紙とで著しく寸法が異なる場合や、複数冊で各冊の寸法が著しく異なる場合は、それぞれその他の寸法を「補記」欄に記録してください。

卷子本・折本・畳み物等、一枚のものとして展開できる資料でも、ここには表紙の寸法（畳み物で表紙が無いものは折り畳んだ状態の寸法）を記入し、全体の寸法については(24)「紙数」に記入してください。

#### (22) 匡郭・界線

調査資料が匡郭を有する場合、その寸法と形態について記入してください。匡郭の無い（無辺）版本・写本の場合、代わりに字高を記入する必要はありません。

四周单边であれば「単」に、四周双边であれば「双」に○を付けてください。その他の天地单边左右双边等の場合、「補記」欄に具体的に記入してください。

寸法は第一冊の本文第一丁ないしそれに準ずる箇所の縦・横の内法を計測し、センチメートルで小数点以下第一位まで記入してください。

界線（罫）がある場合、「界線」の文字を○で囲んでください。

#### (23) 行数

調査資料の本文及び序跋のページ（半葉、半丁）の行数をそれぞれ記入してください。行数不定の場合、「7～9行」のように記してください。歌書の場合、一首が1行書きか2行書きかも記してください。

折本の場合、折山の半分の行数を数えてください。卷子本・継紙など、一ページとして数えることができないものは、無記入で結構です。

行数の異なる序または跋がある場合や冊ごとに行数が異なる場合、合綴本で複雑な場合などは、「補記」欄に記入してください。

#### (24) 紙数

調査資料の表紙以外の総紙数を記入してください。遊紙がある場合、総紙数に含めて記入の上、前後の遊紙数を記してください(遊紙が無い場合は「0」と記入してください)。なお見返しが剥がれて遊紙のようになっていたものは、見返しとして扱い、紙数には含めないこととします。複数冊の資料の場合、この欄には全体の合計紙数を記入し、一冊ごとの紙数は「補記」欄に記入してください。

卷子本の場合、表紙を除いた全長を記してください。ただし、一紙の紙幅がほぼ一定している場合は、「約〇〇・〇cm×△枚」という形で構いません。

折本の場合、折(山折)の数を記入し、書写または印刷が片面か両面か、両面の場合裏面の何折まで書写・印刷されているかも書き添えてください。

撮影計画の作成上重要ですので、なるべく正確にご記入ください。特に「収集の優先度」が高い(3以上)場合、必ず記入してください。記入の無い場合、「収集の優先度」が高い資料であっても収集を見送る場合があります。逆に「収集の優先度」が低い(2以下)と判断された場合、紙数の計量及び記入は省略して構いません。

また、付箋等の貼紙や、挟み込まれた紙(ナフタリンペーパーなど明らかに撮影不要と判断できるものは除く)がある場合、「貼紙」の文字を○で囲んでください。特に「収集の優先度」が高く(3以上)、将来収集を行なう可能性が高いと思われる資料は、貼紙・挟み込み紙の枚数を具体的に記録してく

ださい。紙片等判断に窮する場合、適宜「補記」欄に記録してください。

#### (25) 数量

冊数など、調査資料の物理的な数量を指します。算用数字で記入の上、「冊」など対応する単位に○を付けるか、もしくは適切なものを記入してください。単位については、(26)「装訂」を参照してください。

合本については元の冊数ではなく、調査時点の(合本後の)冊数を記入し、元の冊数は「補記」欄に記入してください。

#### (26) 装訂

調査時点の状態によって、「巻・折・列・粘・袋・折紙綴」の該当するものを○で囲むか、もしくは適切なものを記入してください。

##### 「卷子本の類」

・巻 卷子本、いわゆる巻物を指します。「軸」をもって数えます。  
表紙や軸の無い未装訂のものは「継紙」と記入してください。

##### 「折本の類」

・折 折本を指します。「帖」をもって数えます。手鑑のように折山の半分ごとに一枚の紙で作られている折帖も、便宜これに含めます。  
なお折本の表紙と裏表紙が連続しているものは「旋風葉」と記入してください。ただし実例は稀です。

##### 「冊子本の類」

・列 列帖装を指します。紙を幾枚か重ねて二つに折り、それを二束以上重ねて、折目を糸で綴じ合わせたものです。「綴葉装」とも呼ばれますが、当館では「列帖装」の名称を用います。

・粘 粘葉装を指します。紙を一枚ごとに二つ折りにし、折り目の際を

糊づけして重ねたものです。

- ・袋 袋綴を指します。紙を一枚ごとに二つ折りにして重ね、折り目の

反対側の端を糸や紙縫で綴じたものです。

- ・折紙綴 折紙(紙を折り目が下になるように折ったもの、またはその半截)を重ねて、端を綴じたものです。

このほか、古典籍の冊子本に以下のようなものがあります。

- ・単葉装 一枚の紙を重ね、端を糸や紙縫で綴じたものです。
- ・折紙列帖装 折紙を用いて列帖装に仕立てたものです。
- ・双葉装 紙の用い方は粘葉装と同じで、糊を使わず糸や紙縫で綴じたものです。

- ・折紙双葉装 折紙を用いて双葉装に仕立てたものです。

- ・画帖装 紙を一枚ごとに二つ折りにし、外側の、折り目と平行の端を糊付けして繋げたものです(粘葉装のように折り目部分をも糊付けしたものもあります)。

なお、近現代の洋装本(ノートやメモ帳を含む)の場合、「洋装」と記入してください。

以上の冊子本は「冊」をもって数えます。

(注) 列帖装・粘葉装の冊子本を数える単位として、「帖」を用いることもあります。列帖装・粘葉装のみ「帖」で数える合理的な根拠が存在しないことから、冊子本を数える単位は「冊」で統一することとします。

〔その他〕

- ・一枚物 書状・文書や小型の地図など、一紙程度の、比較的小さいものを指します。「枚」をもって数えます。

- ・畳み物 形状としては一枚ですが、比較的大きく、最初から畳んで収納す

ることを前提に作られたものを指します。通常、折本のように等間隔に細長く折り畳んだ後、それと直角方向に折り畳んであります。

「舗」をもって数えます。

- ・掛軸 絵や書などを掛けて鑑賞するために用いられたものです。「幅」をもって数えます。

- ・短冊 和歌や連歌・俳諧の発句などを書くための細長い紙です。「枚」をもって数えます。

なお、卷子本を折本に改めたり、袋綴を卷子本に改めたりしたものについては、その旨を「補記」欄に記してください。

## (27) 残存

調査資料の残欠状況を指します。完全と見られるときは「全」を○で囲んでください。完全でない場合、「存」または「欠」の一方を○で囲み、残っている、または欠けている巻次等を具体的に記入してください。

## (28) 現有巻数

調査資料が調査時点現在で有している巻数を、内題(またはそれに準ずるもの)によって数えて記入してください。その著作が本来有している巻数ではありませんのでご注意ください。

単位が「巻」以外の場合、記入欄の「巻」を消し、適切な単位を書き入れてください。

古典籍DBでの著作が特定できており、その著作が全何巻かが確認できる場合で、かつ「残存」が「全」である場合、「現有巻数」として記入すべき内

容と古典籍DBでの巻数情報は一致するので、「現有巻数」の記入は省略しても構いません。

(29) 伝来(蔵書印等)

蔵書印・所蔵者の署名など、調査資料の伝来に関わる事項について記入してください。

蔵書印は、印文を「」で囲んで記入し、続けて色・郭・形状、寸法、捺印箇所を( )に入れて記してください。印文は、改行箇所「／」を書かないでください。印文が一続きでないことを示す場合は、切れ目にスペース(一字アキ)を入れてください。

例)「不忍文庫」(朱子持梓長方印、○・○×○・○cm、1才)

例)「三聖寺」(朱重郭円印、径△・△cm、軸初)

例)「子孫永保 雲煙家蔵書記」(墨単郭長方印、□・□×□・□cm、前見返し)

例)「東坊城蔵書記」(朱白文方印、◇・◇×◇・◇cm、表紙)

現在の所蔵者が、学校図書館・公共図書館の場合、現在の所蔵者を示す印は省略して結構です。

(30) 序跋

調査資料に序や跋がある場合、対応する「序」「跋」の文字を○で囲み、年月日と署名(序跋者名)を原文の通り転記してください。序跋の両方がある場合、記入内容がどちらに対応するのか分かるように末尾等へ「(序)」や「(跋)」と付記してください。署名が無く、印などから序跋者を判断した場合、人名に続けて「(印)」などを付してください。

(31) 刊記・奥書・識語・極札・箱書・広告・その他

調査資料が奥書・刊記・識語を有する場合、(○○丁オ)(巻上末尾)(最終丁ウ)(後見返し)のように場所を示した上で全文を引用してください。

奥書・刊記・識語の改行は原文通りを原則とします。やむを得ず行追い込みにするときは、改行箇所に「／」を入れずに続けて書いてください。また、改ページ・改丁箇所をカギ括弧(「や」)で示すことはしないでください。

ただし、奥書・刊記・識語については、次の定義によるものとします。

〔奥書〕

写本において、冊末や巻末に書かれた書写の年月日・書写者など、写本の成立に関する記事は奥書とする。

※親本に存在した奥書が転写されている場合は、省略せず引用してください。

※冊末や巻末以外に写本の書写に関する記事がある場合は奥書に準じて扱い、その所在箇所を示した上で引用してください。

〔刊記〕

版本において、刊行の年月日・版元など版本の出版に関する記事は、場所に関係なく刊記とする。

※冊末と前見返し等、複数箇所に刊記がある場合も全て引用してください。

〔識語〕

版本に書き入れられた、その本や著作に関する記事は識語とする。同様に写本において、書写以後に書き入れられた、写本の成立に関わらないその本や著作に関する記事は識語とする。識語には、校合識語・入手識語・伝授識語・鑑定(加証)識語などがある。

#### 〔極札〕

写本に筆者を鑑定した極札・折紙等が付属している場合は、全文を転記してください。

#### 〔箱書〕

箱書・帙書がある場合は、（箱蓋表）（帙内側）のように場所を示した上で転記してください。

#### 〔広告〕

版本において広告がある場合は、「冊末に「嵩山房蔵版目録」3丁あり」「刊記の後に既刻1点、近刻2点の広告あり」のように記してください。

#### （32）収集の優先度

調査資料の収集の優先度について、1～5の数字から選んで○で囲んでください。数字が大きいほど、優先度が高いものとします。

優先度の判定については、日本古典文学及びその研究に資する資料を中心に考えることとします。

#### （33）補記

これまでの各項目について、記入欄に収まりきらない場合や所定の選択肢以外の内容を記入する場合、あるいは要領で「補記」欄に記入するように指示があった場合、その他各項目以外で特記すべき事項がある場合など、必要に応じて記入してください。各項目に対応する補記の場合、記入内容がどの項目に関するものか分かるように、上部（罫の無い部分）に表面での項目番号もしくは項目名を頭書してください。（外題に関して書く場合は「4」、紙数の場合は「24」など）

「補記」欄を使用した場合は、表面左下の「裏面」を○で囲んでください。

## (二) 細目調査補助カード

細目調査カードの「補記」欄に記入する内容が、「補記」欄に収まりきらない場合、補助カードに記入してください。補助カードを使用した場合は、表面左下の「補助カード 枚」の箇所にもその枚数を記入してください。

記入は「補記」と同様に、上部に項目番号もしくは項目名を頭書きし、下部に内容を記入してください。

その他、細目調査カード本体との対応関係を示すため、次の項目を記入してください。

### 書名〔外題または内題〕

対応する細目調査カードの書名（外題または内題、場合により所蔵者整理書名）を記入してください。整理番号とともに、対応する細目調査カードとの照合に必要ですので、必ず正確に記入してください。

### 整理番号

対応する細目調査カードの整理番号を記入してください。書名とともに、対応する細目調査カードとの照合に必要ですので、必ず正確に記入してください。

### 補助カード番号

一枚の細目調査カードに対し、複数枚の補助カードが対応する場合、各補助カードが全何枚中の何枚目に当たるのかを記入してください。一枚の細目調査カードに対応する補助カードが一枚のみの場合、記入は省略して構いません。

(三) 書目調査カード(NC)

書目調査カードの各項目の記入要領は、概ね細目調査カードの同項目に準じますが、細目調査カードを用いる場合と異なり、次の点に留意して書誌事項を記録してください。

- ・ 収集を前提とし、収集優先度の判断上不可欠な場合を除き、収集後に確認できる内容は詳細を省く。

- ・ 収集計画作成に関わる項目(WID、紙数、間紙、箱帙袋等、状態)は正確に記入する。

整理番号

細目調査カードの(8)と同様に記入してください。

書名

細目調査カードの(4)及び(5)と同様に記入してください。

外題または内題を持たない場合、それぞれ上部の(外題)または(内題)に取消線を引いてください。

外題と内題が同じ場合、まとめて記入して構いません。

著者・編者等

書名と同枠内左にある( )内に、細目調査カードの(9)と同様に記入してください。

WID

細目調査カードの(2)と同様に記入してください。

収集計画において、当館の所蔵原本または収集マイクロフィルム等との重複判

定に必要です。

紙数

細目調査カードの(24)と同様に記入してください。

収集の優先度が3以上の場合、収集計画に必要ですので、貼紙などほかに撮影すべき付属物の枚数と合わせて、正確な総数を記入してください。

収集の優先度

細目調査カードの(32)と同様に記入してください。

寸法

細目調査カードの(21)と同様に記入してください。

装訂

細目調査カードの(26)と同様に記入してください。

数量

細目調査カードの(25)と同様に記入してください。

写刊

細目調査カードの(1)と同様に記入してください。

写刊年時

細目調査カードの(10)と同様に記入してください。

間紙

細目調査カードの（20）と同様に記入してください。  
収集計画に必要ですので、間紙を必要とする箇所が限定できる場合、詳細を（備考）に記入してください。

残存

細目調査カードの（27）と同様に記入してください。

筆者版元

細目調査カードの（11）と同様に記入してください。

箱・帙・袋等

細目調査カードの（19）と同様に記入してください。  
収集計画に必要ですので、箱・帙・袋その他撮影対象となり得る付属物がある場合、その数量を必ず記入してください。

状態

細目調査カードの（18）と同様に記入してください。  
収集計画に必要ですので、撮影の可否や撮影時の取り扱いに影響する要素があれば必ず記入してください。

備考

細目調査カードの（33）補記と同様に記入してください。書目調査カードには項目番号がありませんので、項目名を頭書してください。備考欄に収まりきらない場合は、細目調査補助カードを使用してください。

#### (四) 文献資料調査記録

一回の調査実施につき、調査日程や採取したカードの枚数など、調査者ごとの調査結果の概要を記入する書式です。

中央の「調査結果」欄内の項目について記入してください。「調査者」と「所蔵者」欄は事前に、「学術資料部担当者」と「受付年月日」は事後にそれぞれ当館で記入または押印します。

##### 1. 調査日程

調査を行なった日程（参加日程）を西暦で記入してください。調査日が対象のため、調査に係る出張日程とは必ずしも一致しない場合があります。一日のみの調査の場合でも、日程の開始と終了の二箇所記入してください。

数日おきに調査する等で調査日程が連続しない場合、「」を取り消し、調査日を洩れなく列記してください。

##### 2. 作業内容の報告

###### (1) カードによる報告

期間中に採取したカードの枚数を、カードの種類ごとに記入してください。書目カードと叢書カードの場合、点数も記入してください。

###### (2) その他

資料の出納や整理など、カード採取以外の作業を行なった場合やカードによる報告に関する補足がある場合、こちらに記入してください。

特に調査日程の間、カード採取以外の作業のみを行い、カードの採取が無かった場合は必ず記入してください。

#### (五) 調査概要

一回の調査実施につき、調査日程や特筆すべき調査成果など、その回の調査全体の概要を記入する書式です。その回の調査者のうち一名が記入し、提出してください。記入及び提出の担当は調査者間でご相談願います。

中央の枠内の項目について記入してください。「所蔵者」欄は事前に、「学術資料部担当者」と「受付年月日」は事後にそれぞれ当館で記入または押印します。

##### 1. 調査日程

調査年度と、その年度の何回目の調査かを記入してください。

調査を行なった日程を西暦で記入してください。一日のみの調査の場合でも、日程の開始と終了の二箇所記入してください。

数日おきに調査する等で調査日程が連続しない場合、「」を取り消し、調査日を洩れなく列記してください。

##### 2. 蔵書の概要

###### (1) 調査書目の概要

調査した資料の概要を記入してください。時代やジャンル等の傾向、所蔵者・コレクション全体から見たときの範囲や位置づけ等を適宜記してください。

例) 江戸時代後期の俳諧に関わる短冊類を中心に調査した。

例) ○○文庫の目録○ページから○ページの資料を調査した。

###### (2) 特記すべき資料

調査した資料のうち特記すべきものがあれば、その理由と合わせて記入してください。

調査カードにおいて「収集の優先度」が高いとした個々の資料について、調査カードと重複して列記する必要はありません。複数の資料に係る特記事項や「収集の優先度」に関わらず特記すべきと判断されたもの等について記入してください。

### 3・調査の進捗状況

その回の調査により、その所蔵者あるいはコレクションに関する調査がどの程度進展したか、具体的に記入してください。

当年度の調査計画（予定点数）の達成状況について必ずしも記す必要はありませんが、計画と大きく異なる場合でその理由が推定できるときは、例えば「大部の写本が多く、かなりの遅れが生じた」のように記入してください。

また、調査予定書目のうち、所在不明や状態不良で当日調査できず、次回以降も調査困難と見込まれる資料があればお知らせください。

### 4・その他の情報

その他の連絡事項がある場合、記入してください。

# 十二月異名表

| 十二月                                           | 十一月                 | 十月                    | 九月                             | 八月                             | 七月                                | 六月                  | 五月                              | 四月                                | 三月                              | 二月             | 正月                             |
|-----------------------------------------------|---------------------|-----------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|---------------------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|----------------|--------------------------------|
| 季冬 晩冬 臘月 極月 大呂 四極 春待月<br>梅初月 三冬月 親子月 をとこ月 暮古月 | 仲冬 暢月 黄鍾 朔易 神婦月 雪待月 | 初冬 陽月 応鍾 時雨月 初霰月 小田苜月 | 季秋 晩秋 菊月 無射 菊開月 月見月<br>紅葉月 寢覚月 | 仲秋 中秋 南呂 素月 月見月 草津月<br>秋風月 木染月 | 孟秋 初秋 涼月 夷則 めであひ月<br>女郎花月 七夜月 秋初月 | 季夏 晩夏 鶉火 林鍾 鳴雷月 常夏月 | 仲夏 梅月 橘月 蕤賓 東井 星火<br>さみだれ月 さくも月 | 孟夏 初夏 首夏 麦秋 中呂 清和月 卯花月<br>夏初月 花残月 | 季春 晩春 暮春 戴陽 姑洗 嘉月 花見月<br>春惜月 桜月 | 仲春 仲陽 令月 麗月 夾鍾 | 孟春 春陽 初春 孟陬 陬月 太簇 献歳<br>元月 太郎月 |
| しはす（師走）                                       | しもづき（霜月）            | かみなづき（神無月・陽月）         | ながつき（長月）                       | はづき（葉月）                        | ふづき・ふみづき（文月）                      | みなづき（水月・水無月）        | さつき（皐月）                         | うづき（卯月）                           | やよい（弥生）                         | きさらぎ（如月・衣更着）   | むつき（睦月・暁月）                     |

# 年号一覧

|   |    |           |   |    |           |   |      |           |
|---|----|-----------|---|----|-----------|---|------|-----------|
| あ | 安永 | 1772—1780 | か | 寛永 | 1624—1643 | こ | 興国   | 1340—1345 |
|   | 安元 | 1175—1176 |   | 寛延 | 1748—1750 |   | 康安   | 1361      |
| え | 安政 | 1855—1859 |   | 寛喜 | 1229—1231 |   | 康永   | 1342—1344 |
|   | 安貞 | 1227—1228 |   | 寛元 | 1243—1246 |   | 康応   | 1389      |
|   | 安和 | 968—969   |   | 寛弘 | 1004—1011 |   | 康元   | 1256      |
|   | 永延 | 987—988   |   | 寛治 | 1087—1093 |   | 康治   | 1142—1143 |
|   | 永観 | 983—984   |   | 寛正 | 1460—1465 |   | 康正   | 1455—1456 |
|   | 永久 | 1113—1117 |   | 寛政 | 1789—1800 |   | 康平   | 1058—1064 |
|   | 永享 | 1429—1440 |   | 寛徳 | 1044—1045 |   | 康保   | 964—967   |
|   | 永治 | 1141      |   | 寛和 | 985—986   |   | 康暦   | 1379—1380 |
|   | 永祥 | 989       |   | 寛仁 | 1017—1020 |   | 康和   | 1099—1103 |
|   | 永承 | 1046—1052 |   | 寛平 | 889—897   |   | 弘安   | 1278—1287 |
|   | 永正 | 1504—1520 |   | 寛文 | 1661—1672 |   | 弘化   | 1844—1847 |
|   | 永長 | 1096—1100 |   | 寛保 | 1741—1743 |   | 弘治   | 1555—1557 |
|   | 永徳 | 1381—1388 |   | 観応 | 1350—1351 |   | 弘長   | 1261—1263 |
|   | 永仁 | 1293—1298 | き | 元慶 | 877—884   |   | 弘仁   | 810—823   |
|   | 永保 | 1081—1083 |   | 久安 | 1145—1150 | さ | 弘和   | 1381—1383 |
|   | 永万 | 1165      |   | 久寿 | 1154—1155 | し | 斉衡   | 854—856   |
|   | 永暦 | 1160      |   | 享徳 | 1452—1454 |   | 至徳   | 1384—1386 |
|   | 永禄 | 1558—1569 |   | 享保 | 1716—1735 |   | 朱鳥   | 686       |
|   | 永和 | 1375—1378 |   | 享禄 | 1528—1531 |   | 寿永   | 1182—1184 |
|   | 延応 | 1239      | け | 享和 | 1801—1803 |   | 承安   | 1171—1174 |
|   | 延喜 | 901—922   |   | 乾元 | 1302      |   | 承応   | 1652—1654 |
|   | 延久 | 1069—1073 |   | 慶安 | 1648—1651 |   | 承久   | 1219—1221 |
|   | 延慶 | 1308—1310 |   | 慶雲 | 704—707   |   | 承元   | 1207—1210 |
|   | 延享 | 1744—1747 |   | 慶応 | 1865—1867 |   | 承德   | 1097—1098 |
|   | 延元 | 1336—1339 |   | 慶長 | 1596—1614 |   | 承平   | 931—937   |
|   | 延長 | 923—930   |   | 建永 | 1206      |   | 承保   | 1074—1076 |
|   | 延徳 | 1489—1491 |   | 建久 | 1190—1198 |   | 承暦   | 1077—1080 |
|   | 延文 | 1356—1360 |   | 建治 | 1275—1277 |   | 承和   | 834—847   |
|   | 延宝 | 1673—1680 |   | 建長 | 1249—1255 |   | 昌泰   | 898—900   |
|   | 延暦 | 782—805   |   | 建徳 | 1370—1371 |   | 昭和   | 1926—1988 |
| お | 応安 | 1368—1374 |   | 建仁 | 1201—1203 |   | 神亀   | 724—728   |
|   | 応永 | 1394—1427 |   | 建保 | 1213—1218 |   | 神護景雲 | 767—769   |
|   | 応長 | 1311      |   | 建武 | 1334—1337 |   | 正安   | 1299—1301 |
|   | 応徳 | 1084—1086 |   | 建暦 | 1211—1212 |   | 正応   | 1288—1292 |
|   | 応仁 | 1467—1468 |   | 元永 | 1118—1119 |   | 正嘉   | 1257—1256 |
|   | 応保 | 1161—1162 |   | 元応 | 1319—1320 |   | 正慶   | 1332—1333 |
| か | 応和 | 961—963   |   | 元亀 | 1570—1572 |   | 正元   | 1259      |
|   | 嘉永 | 1848—1853 |   | 元久 | 1204—1205 |   | 正治   | 1199—1200 |
|   | 嘉応 | 1169—1170 |   | 元亨 | 1321—1323 |   | 正中   | 1324—1325 |
|   | 嘉吉 | 1441—1443 |   | 元弘 | 1331—1333 |   | 正長   | 1428      |
|   | 嘉慶 | 1387—1388 |   | 元治 | 1864      |   | 正徳   | 1711—1715 |
|   | 嘉元 | 1303—1305 |   | 元中 | 1384—1391 |   | 正平   | 1346—1369 |
|   | 嘉祥 | 848—850   |   | 元徳 | 1329—1331 |   | 正保   | 1644—1647 |
|   | 嘉承 | 1106—1107 |   | 元和 | 1615—1623 |   | 正暦   | 990—994   |
|   | 嘉禎 | 1235—1237 |   | 元仁 | 1224      |   | 正和   | 1312—1316 |
|   | 嘉保 | 1094—1095 |   | 元文 | 1736—1740 |   |      |           |
|   | 嘉暦 | 1326—1328 |   | 元暦 | 1184      |   |      |           |
|   | 嘉禄 | 1225—1226 |   | 元禄 | 1688—1703 |   |      |           |

※西暦は改元の年にわたらない。

# 年号一覧

|   |      |           |   |    |           |
|---|------|-----------|---|----|-----------|
| し | 貞永   | 1232      | て | 天明 | 1781—1788 |
|   | 貞応   | 1222—1223 |   | 天養 | 1144      |
|   | 貞観   | 859—876   |   | 天曆 | 947—956   |
|   | 貞享   | 1684—1687 |   | 天禄 | 970—972   |
|   | 貞元   | 976—977   | と | 徳治 | 1306—1307 |
|   | 貞治   | 1362—1367 | に | 仁安 | 1166—1168 |
|   | 貞和   | 1345—1349 |   | 仁治 | 1240—1242 |
| た | 大永   | 1521—1527 |   | 仁寿 | 851—853   |
|   | 大化   | 645—649   |   | 仁和 | 885—888   |
|   | 大治   | 1126—1130 |   | 仁平 | 1151—1153 |
|   | 大正   | 1912—1925 | は | 白雉 | 650—653   |
|   | 大同   | 806       | ふ | 文安 | 1444—1448 |
|   | 大宝   | 701—809   |   | 文永 | 1264—1274 |
| ち | 治安   | 1021—1023 |   | 文応 | 1260      |
|   | 治承   | 1177—1180 |   | 文化 | 1804—1817 |
|   | 治暦   | 1065—1068 |   | 文亀 | 1501—1503 |
|   | 長寛   | 1163—1164 |   | 文久 | 1861—1863 |
|   | 長久   | 1040—1043 |   | 文治 | 1185—1189 |
|   | 長享   | 1487—1488 |   | 文正 | 1466      |
|   | 長元   | 1028—1036 |   | 文政 | 1818—1829 |
|   | 長治   | 1104—1105 |   | 文中 | 1372—1374 |
|   | 長承   | 1132—1134 |   | 文保 | 1317—1318 |
|   | 長徳   | 995—998   |   | 文明 | 1469—1486 |
|   | 長保   | 999—1003  |   | 文暦 | 1234      |
|   | 長暦   | 1037—1039 |   | 文禄 | 1592—1595 |
|   | 長禄   | 1457—1459 |   | 文和 | 1352—1355 |
|   | 長和   | 1012—1016 | へ | 平治 | 1159      |
| て | 天安   | 857—858   |   | 平成 | 1989—2018 |
|   | 天永   | 1110—1112 | ほ | 保安 | 1120—1123 |
|   | 天延   | 973—975   |   | 保延 | 1135—1140 |
|   | 天応   | 781       |   | 保元 | 1156—1158 |
|   | 天喜   | 1053—1057 |   | 宝永 | 1704—1710 |
|   | 天慶   | 938—946   |   | 宝亀 | 770—780   |
|   | 天元   | 978—982   |   | 宝治 | 1247—1248 |
|   | 天治   | 1124—1125 |   | 宝徳 | 1449—1451 |
|   | 天授   | 1375—1380 |   | 宝暦 | 1751—1763 |
|   | 天正   | 1573—1591 | ま | 万延 | 1860      |
|   | 天承   | 1131      |   | 万治 | 1658—1660 |
|   | 天長   | 824—833   |   | 万寿 | 1024—1027 |
|   | 天徳   | 957—960   | め | 明応 | 1492—1500 |
|   | 天和   | 1681—1683 |   | 明治 | 1868—1911 |
|   | 天仁   | 1108—1109 |   | 明徳 | 1390—1393 |
|   | 天平   | 729—748   |   | 明暦 | 1655—1657 |
|   | 天平感宝 | 749       |   | 明和 | 1764—1771 |
|   | 天平勝宝 | 749—756   | よ | 養老 | 717—723   |
|   | 天平神護 | 765—766   |   | 養和 | 1181      |
|   | 天平宝字 | 757—764   | り | 暦応 | 1338—1341 |
|   | 天福   | 1233      |   | 暦仁 | 1238      |
|   | 天文   | 1532—1554 | れ | 霊亀 | 715—716   |
|   | 天保   | 1830—1843 | わ | 和銅 | 708—714   |

※西暦は改元の年にわたらない。

年号干支表

| 干支 | 西曆   | 年号   | 西曆   | 年号   | 西曆   | 年号   | 西曆   | 年号   |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 甲子 | 1024 | 万寿 1 | 1084 | 応徳 1 | 1144 | 天養 1 | 1204 | 元久 1 |
| 乙丑 | 1025 | 万寿 2 | 1085 | 応徳 2 | 1145 | 久安 1 | 1205 | 元久 2 |
| 丙寅 | 1026 | 万寿 3 | 1086 | 応徳 3 | 1146 | 久安 2 | 1206 | 建永 1 |
| 丁卯 | 1027 | 万寿 4 | 1087 | 寛治 1 | 1147 | 久安 3 | 1207 | 承元 1 |
| 戊辰 | 1028 | 長元 1 | 1088 | 寛治 2 | 1148 | 久安 4 | 1208 | 承元 2 |
| 己巳 | 1029 | 長元 2 | 1089 | 寛治 3 | 1149 | 久安 5 | 1209 | 承元 3 |
| 庚午 | 1030 | 長元 3 | 1090 | 寛治 4 | 1150 | 久安 6 | 1210 | 承元 4 |
| 辛未 | 1031 | 長元 4 | 1091 | 寛治 5 | 1151 | 仁平 1 | 1211 | 建暦 1 |
| 壬申 | 1032 | 長元 5 | 1092 | 寛治 6 | 1152 | 仁平 2 | 1212 | 建暦 2 |
| 癸酉 | 1033 | 長元 6 | 1093 | 寛治 7 | 1153 | 仁平 3 | 1213 | 建保 1 |
| 甲戌 | 1034 | 長元 7 | 1094 | 嘉保 1 | 1154 | 久寿 1 | 1214 | 建保 2 |
| 乙亥 | 1035 | 長元 8 | 1095 | 嘉保 2 | 1155 | 久寿 2 | 1215 | 建保 3 |
| 丙子 | 1036 | 長元 9 | 1096 | 永長 1 | 1156 | 保元 1 | 1216 | 建保 4 |
| 丁丑 | 1037 | 長暦 1 | 1097 | 承德 1 | 1157 | 保元 2 | 1217 | 建保 5 |
| 戊寅 | 1038 | 長暦 2 | 1098 | 承德 2 | 1158 | 保元 3 | 1218 | 建保 6 |
| 己卯 | 1039 | 長暦 3 | 1099 | 康和 1 | 1159 | 平治 1 | 1219 | 承久 1 |
| 庚辰 | 1040 | 長久 1 | 1100 | 康和 2 | 1160 | 永暦 1 | 1220 | 承久 2 |
| 辛巳 | 1041 | 長久 2 | 1101 | 康和 3 | 1161 | 応保 1 | 1221 | 承久 3 |
| 壬午 | 1042 | 長久 3 | 1102 | 康和 4 | 1162 | 応保 2 | 1222 | 貞応 1 |
| 癸未 | 1043 | 長久 4 | 1103 | 康和 5 | 1163 | 応保 3 | 1223 | 貞応 2 |
| 甲申 | 1044 | 寛徳 1 | 1104 | 長治 1 | 1164 | 長寛 2 | 1224 | 元仁 1 |
| 乙酉 | 1045 | 寛徳 2 | 1105 | 長治 2 | 1165 | 永万 1 | 1225 | 嘉禄 1 |
| 丙戌 | 1046 | 永承 1 | 1106 | 嘉承 1 | 1166 | 仁安 1 | 1226 | 嘉禄 2 |
| 丁亥 | 1047 | 永承 2 | 1107 | 嘉承 2 | 1167 | 仁安 2 | 1227 | 安貞 1 |
| 戊子 | 1048 | 永承 3 | 1108 | 天仁 1 | 1168 | 仁安 3 | 1228 | 安貞 2 |
| 己丑 | 1049 | 永承 4 | 1109 | 天仁 2 | 1169 | 嘉応 1 | 1229 | 寛喜 1 |
| 庚寅 | 1050 | 永承 5 | 1110 | 天永 1 | 1170 | 嘉応 2 | 1230 | 寛喜 2 |
| 辛卯 | 1051 | 永承 6 | 1111 | 天永 2 | 1171 | 承安 1 | 1231 | 寛喜 3 |
| 壬辰 | 1052 | 永承 7 | 1112 | 天永 3 | 1172 | 承安 2 | 1232 | 貞永 1 |
| 癸巳 | 1053 | 天喜 1 | 1113 | 永久 1 | 1173 | 承安 3 | 1233 | 天福 1 |
| 甲午 | 1054 | 天喜 2 | 1114 | 永久 2 | 1174 | 承安 4 | 1234 | 文暦 1 |
| 乙未 | 1055 | 天喜 3 | 1115 | 永久 3 | 1175 | 安元 1 | 1235 | 嘉禎 1 |
| 丙申 | 1056 | 天喜 4 | 1116 | 永久 4 | 1176 | 安元 2 | 1236 | 嘉禎 2 |
| 丁酉 | 1057 | 天喜 5 | 1117 | 永久 5 | 1177 | 治承 1 | 1237 | 嘉禎 3 |
| 戊戌 | 1058 | 康平 1 | 1118 | 元永 1 | 1178 | 治承 2 | 1238 | 暦仁 1 |
| 己亥 | 1059 | 康平 2 | 1119 | 元永 2 | 1179 | 治承 3 | 1239 | 延応 1 |
| 庚子 | 1060 | 康平 3 | 1120 | 保安 1 | 1180 | 治承 4 | 1240 | 仁治 1 |
| 辛丑 | 1061 | 康平 4 | 1121 | 保安 2 | 1181 | 養和 1 | 1241 | 仁治 2 |
| 壬寅 | 1062 | 康平 5 | 1122 | 保安 3 | 1182 | 寿永 1 | 1242 | 仁治 3 |
| 癸卯 | 1063 | 康平 6 | 1123 | 保安 4 | 1183 | 寿永 2 | 1243 | 寛元 1 |
| 甲辰 | 1064 | 康平 7 | 1124 | 天治 1 | 1184 | 元暦 1 | 1244 | 寛元 2 |
| 乙巳 | 1065 | 治暦 1 | 1125 | 天治 2 | 1185 | 文治 1 | 1245 | 寛元 3 |
| 丙午 | 1066 | 治暦 2 | 1126 | 大治 1 | 1186 | 文治 2 | 1246 | 寛元 4 |
| 丁未 | 1067 | 治暦 3 | 1127 | 大治 2 | 1187 | 文治 3 | 1247 | 宝治 1 |
| 戊申 | 1068 | 治暦 4 | 1128 | 大治 3 | 1188 | 文治 4 | 1248 | 宝治 2 |
| 己酉 | 1069 | 延久 1 | 1129 | 大治 4 | 1189 | 文治 5 | 1249 | 建長 1 |
| 庚戌 | 1070 | 延久 2 | 1130 | 大治 5 | 1190 | 建久 1 | 1250 | 建長 2 |
| 辛亥 | 1071 | 延久 3 | 1131 | 天承 1 | 1191 | 建久 2 | 1251 | 建長 3 |
| 壬子 | 1072 | 延久 4 | 1132 | 長承 1 | 1192 | 建久 3 | 1252 | 建長 4 |
| 癸丑 | 1073 | 延久 5 | 1133 | 長承 2 | 1193 | 建久 4 | 1253 | 建長 5 |
| 甲寅 | 1074 | 承保 1 | 1134 | 長承 3 | 1194 | 建久 5 | 1254 | 建長 6 |
| 乙卯 | 1075 | 承保 2 | 1135 | 保延 1 | 1195 | 建久 6 | 1255 | 建長 7 |
| 丙辰 | 1076 | 承保 3 | 1136 | 保延 2 | 1196 | 建久 7 | 1256 | 康元 1 |
| 丁巳 | 1077 | 承暦 1 | 1137 | 保延 3 | 1197 | 建久 8 | 1257 | 正嘉 1 |
| 戊午 | 1078 | 承暦 2 | 1138 | 保延 4 | 1198 | 建久 9 | 1258 | 正嘉 2 |
| 己未 | 1079 | 承暦 3 | 1139 | 保延 5 | 1199 | 正治 1 | 1259 | 正元 1 |
| 庚申 | 1080 | 承暦 4 | 1140 | 保延 6 | 1200 | 正治 2 | 1260 | 文応 1 |
| 辛酉 | 1081 | 永保 1 | 1141 | 永治 1 | 1201 | 建仁 1 | 1261 | 弘長 1 |
| 壬戌 | 1082 | 永保 2 | 1142 | 康治 1 | 1202 | 建仁 2 | 1262 | 弘長 2 |
| 癸亥 | 1083 | 永保 3 | 1143 | 康治 2 | 1203 | 建仁 3 | 1263 | 弘長 3 |

年号干支表

| 干支 |  |
|----|--|
| 甲子 |  |
| 乙丑 |  |
| 丙寅 |  |
| 丁卯 |  |
| 戊辰 |  |
| 己巳 |  |
| 庚午 |  |
| 辛未 |  |
| 壬申 |  |
| 癸酉 |  |
| 甲戌 |  |
| 乙亥 |  |
| 丙子 |  |
| 丁丑 |  |
| 戊寅 |  |
| 己卯 |  |
| 庚辰 |  |
| 辛巳 |  |
| 壬午 |  |
| 癸未 |  |
| 甲申 |  |
| 乙酉 |  |
| 丙戌 |  |
| 丁亥 |  |
| 戊子 |  |
| 己丑 |  |
| 庚寅 |  |
| 辛卯 |  |
| 壬辰 |  |
| 癸巳 |  |
| 甲午 |  |
| 乙未 |  |
| 丙申 |  |
| 丁酉 |  |
| 戊戌 |  |
| 己亥 |  |
| 庚子 |  |
| 辛丑 |  |
| 壬寅 |  |
| 癸卯 |  |
| 甲辰 |  |
| 乙巳 |  |
| 丙午 |  |
| 丁未 |  |
| 戊申 |  |
| 己酉 |  |
| 庚戌 |  |
| 辛亥 |  |
| 壬子 |  |
| 癸丑 |  |
| 甲寅 |  |
| 乙卯 |  |
| 丙辰 |  |
| 丁巳 |  |
| 戊午 |  |
| 己未 |  |
| 庚申 |  |
| 辛酉 |  |
| 壬戌 |  |
| 癸亥 |  |

| 西曆   | 年号    |
|------|-------|
| 1264 | 文永 1  |
| 1265 | 文永 2  |
| 1266 | 文永 3  |
| 1267 | 文永 4  |
| 1268 | 文永 5  |
| 1269 | 文永 6  |
| 1270 | 文永 7  |
| 1271 | 文永 8  |
| 1272 | 文永 9  |
| 1273 | 文永 10 |
| 1274 | 文永 11 |
| 1275 | 建治 1  |
| 1276 | 建治 2  |
| 1277 | 建治 3  |
| 1278 | 弘安 1  |
| 1279 | 弘安 2  |
| 1280 | 弘安 3  |
| 1281 | 弘安 4  |
| 1282 | 弘安 5  |
| 1283 | 弘安 6  |
| 1284 | 弘安 7  |
| 1285 | 弘安 8  |
| 1286 | 弘安 9  |
| 1287 | 弘安 10 |
| 1288 | 正応 1  |
| 1289 | 正応 2  |
| 1290 | 正応 3  |
| 1291 | 正応 4  |
| 1292 | 正応 5  |
| 1293 | 永仁 1  |
| 1294 | 永仁 2  |
| 1295 | 永仁 3  |
| 1296 | 永仁 4  |
| 1297 | 永仁 5  |
| 1298 | 永仁 6  |
| 1299 | 正安 1  |
| 1300 | 正安 2  |
| 1301 | 正安 3  |
| 1302 | 乾元 1  |
| 1303 | 嘉元 1  |
| 1304 | 嘉元 2  |
| 1305 | 嘉元 3  |
| 1306 | 徳治 1  |
| 1307 | 徳治 2  |
| 1308 | 延慶 1  |
| 1309 | 延慶 2  |
| 1310 | 延慶 3  |
| 1311 | 応長 1  |
| 1312 | 正和 1  |
| 1313 | 正和 2  |
| 1314 | 正和 3  |
| 1315 | 正和 4  |
| 1316 | 正和 5  |
| 1317 | 文保 1  |
| 1318 | 文保 2  |
| 1319 | 元応 1  |
| 1320 | 元応 2  |
| 1321 | 元亨 1  |
| 1322 | 元亨 2  |
| 1323 | 元亨 3  |

| 西曆   | 年号 (北朝/南朝)   |
|------|--------------|
| 1324 | 正中 1         |
| 1325 | 正中 2         |
| 1326 | 嘉暦 1         |
| 1327 | 嘉暦 2         |
| 1328 | 嘉暦 3         |
| 1329 | 元徳 1         |
| 1330 | 元徳 2         |
| 1331 | 元徳 3 / 元弘 1  |
| 1332 | 正慶 1 / 元弘 2  |
| 1333 | 正慶 2 / 元弘 3  |
| 1334 | 建武 1         |
| 1335 | 建武 2         |
| 1336 | 建武 3 / 延元 1  |
| 1337 | 建武 4 / 延元 2  |
| 1338 | 暦応 1 / 延元 3  |
| 1339 | 暦応 2 / 延元 4  |
| 1340 | 暦応 3 / 興国 1  |
| 1341 | 暦応 4 / 興国 2  |
| 1342 | 康永 1 / 興国 3  |
| 1343 | 康永 2 / 興国 4  |
| 1344 | 康永 3 / 興国 5  |
| 1345 | 貞和 1 / 興国 6  |
| 1346 | 貞和 2 / 正平 1  |
| 1347 | 貞和 3 / 正平 2  |
| 1348 | 貞和 4 / 正平 3  |
| 1349 | 貞和 5 / 正平 4  |
| 1350 | 観応 1 / 正平 5  |
| 1351 | 観応 2 / 正平 6  |
| 1352 | 文和 1 / 正平 7  |
| 1353 | 文和 2 / 正平 8  |
| 1354 | 文和 3 / 正平 9  |
| 1355 | 文和 4 / 正平 10 |
| 1356 | 延文 1 / 正平 11 |
| 1357 | 延文 2 / 正平 12 |
| 1358 | 延文 3 / 正平 13 |
| 1359 | 延文 4 / 正平 14 |
| 1360 | 延文 5 / 正平 15 |
| 1361 | 康安 1 / 正平 16 |
| 1362 | 貞治 1 / 正平 17 |
| 1363 | 貞治 2 / 正平 18 |
| 1364 | 貞治 3 / 正平 19 |
| 1365 | 貞治 4 / 正平 20 |
| 1366 | 貞治 5 / 正平 21 |
| 1367 | 貞治 6 / 正平 22 |
| 1368 | 応安 1 / 正平 23 |
| 1369 | 応安 2 / 正平 24 |
| 1370 | 応安 3 / 建徳 1  |
| 1371 | 応安 4 / 建徳 2  |
| 1372 | 応安 5 / 文中 1  |
| 1373 | 応安 6 / 文中 2  |
| 1374 | 応安 7 / 文中 3  |
| 1375 | 永和 1 / 天授 1  |
| 1376 | 永和 2 / 天授 2  |
| 1377 | 永和 3 / 天授 3  |
| 1378 | 永和 4 / 天授 4  |
| 1379 | 康暦 1 / 天授 5  |
| 1380 | 康暦 2 / 天授 6  |
| 1381 | 永徳 1 / 弘和 1  |
| 1382 | 永徳 2 / 弘和 2  |
| 1383 | 永徳 3 / 弘和 3  |

| 西曆   | 年号 (北朝/南朝)  |
|------|-------------|
| 1384 | 至徳 1 / 元中 1 |
| 1385 | 至徳 2 / 元中 2 |
| 1386 | 至徳 3 / 元中 3 |
| 1387 | 嘉慶 1 / 元中 4 |
| 1388 | 嘉慶 2 / 元中 5 |
| 1389 | 康応 1 / 元中 6 |
| 1390 | 明德 1 / 元中 7 |
| 1391 | 明德 2 / 元中 8 |
| 1392 | 明德 3 / 元中 9 |
| 1393 | 明德 4        |
| 1394 | 応永 1        |
| 1395 | 応永 2        |
| 1396 | 応永 3        |
| 1397 | 応永 4        |
| 1398 | 応永 5        |
| 1399 | 応永 6        |
| 1400 | 応永 7        |
| 1401 | 応永 8        |
| 1402 | 応永 9        |
| 1403 | 応永 10       |
| 1404 | 応永 11       |
| 1405 | 応永 12       |
| 1406 | 応永 13       |
| 1407 | 応永 14       |
| 1408 | 応永 15       |
| 1409 | 応永 16       |
| 1410 | 応永 17       |
| 1411 | 応永 18       |
| 1412 | 応永 19       |
| 1413 | 応永 20       |
| 1414 | 応永 21       |
| 1415 | 応永 22       |
| 1416 | 応永 23       |
| 1417 | 応永 24       |
| 1418 | 応永 25       |
| 1419 | 応永 26       |
| 1420 | 応永 27       |
| 1421 | 応永 28       |
| 1422 | 応永 29       |
| 1423 | 応永 30       |
| 1424 | 応永 31       |
| 1425 | 応永 32       |
| 1426 | 応永 33       |
| 1427 | 応永 34       |
| 1428 | 正長 1        |
| 1429 | 永享 1        |
| 1430 | 永享 2        |
| 1431 | 永享 3        |
| 1432 | 永享 4        |
| 1433 | 永享 5        |
| 1434 | 永享 6        |
| 1435 | 永享 7        |
| 1436 | 永享 8        |
| 1437 | 永享 9        |
| 1438 | 永享 10       |
| 1439 | 永享 11       |
| 1440 | 永享 12       |
| 1441 | 嘉吉 1        |
| 1442 | 嘉吉 2        |
| 1443 | 嘉吉 3        |

年号干支表

| 干支 |  |
|----|--|
| 甲子 |  |
| 乙丑 |  |
| 丙寅 |  |
| 丁卯 |  |
| 戊辰 |  |
| 己巳 |  |
| 庚午 |  |
| 辛未 |  |
| 壬申 |  |
| 癸酉 |  |
| 甲戌 |  |
| 乙亥 |  |
| 丙子 |  |
| 丁丑 |  |
| 戊寅 |  |
| 己卯 |  |
| 庚辰 |  |
| 辛巳 |  |
| 壬午 |  |
| 癸未 |  |
| 甲申 |  |
| 乙酉 |  |
| 丙戌 |  |
| 丁亥 |  |
| 戊子 |  |
| 己丑 |  |
| 庚寅 |  |
| 辛卯 |  |
| 壬辰 |  |
| 癸巳 |  |
| 甲午 |  |
| 乙未 |  |
| 丙申 |  |
| 丁酉 |  |
| 戊戌 |  |
| 己亥 |  |
| 庚子 |  |
| 辛丑 |  |
| 壬寅 |  |
| 癸卯 |  |
| 甲辰 |  |
| 乙巳 |  |
| 丙午 |  |
| 丁未 |  |
| 戊申 |  |
| 己酉 |  |
| 庚戌 |  |
| 辛亥 |  |
| 壬子 |  |
| 癸丑 |  |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1444 | 文安 1 |
| 1445 | 文安 2 |
| 1446 | 文安 3 |
| 1447 | 文安 4 |
| 1448 | 文安 5 |
| 1449 | 宝徳 1 |
| 1450 | 宝徳 2 |
| 1451 | 宝徳 3 |
| 1452 | 享徳 1 |
| 1453 | 享徳 2 |
| 1454 | 享徳 3 |
| 1455 | 康正 1 |
| 1456 | 康正 2 |
| 1457 | 長祿 1 |
| 1458 | 長祿 2 |
| 1459 | 長祿 3 |
| 1460 | 寛正 1 |
| 1461 | 寛正 2 |
| 1462 | 寛正 3 |
| 1463 | 寛正 4 |
| 1464 | 寛正 5 |
| 1465 | 寛正 6 |
| 1466 | 文正 1 |
| 1467 | 応仁 1 |
| 1468 | 応仁 2 |
| 1469 | 文明 1 |
| 1470 | 文明 2 |
| 1471 | 文明 3 |
| 1472 | 文明 4 |
| 1473 | 文明 5 |
| 1474 | 文明 6 |
| 1475 | 文明 7 |
| 1476 | 文明 8 |
| 1477 | 文明 9 |
| 1478 | 文明10 |
| 1479 | 文明11 |
| 1480 | 文明12 |
| 1481 | 文明13 |
| 1482 | 文明14 |
| 1483 | 文明15 |
| 1484 | 文明16 |
| 1485 | 文明17 |
| 1486 | 文明18 |
| 1487 | 長享 1 |
| 1488 | 長享 2 |
| 1489 | 延徳 1 |
| 1490 | 延徳 2 |
| 1491 | 延徳 3 |
| 1492 | 明応 1 |
| 1493 | 明応 2 |
| 1494 | 明応 3 |
| 1495 | 明応 4 |
| 1496 | 明応 5 |
| 1497 | 明応 6 |
| 1498 | 明応 7 |
| 1499 | 明応 8 |
| 1500 | 明応 9 |
| 1501 | 文亀 1 |
| 1502 | 文亀 2 |
| 1503 | 文亀 3 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1504 | 永正 1 |
| 1505 | 永正 2 |
| 1506 | 永正 3 |
| 1507 | 永正 4 |
| 1508 | 永正 5 |
| 1509 | 永正 6 |
| 1510 | 永正 7 |
| 1511 | 永正 8 |
| 1512 | 永正 9 |
| 1513 | 永正10 |
| 1514 | 永正11 |
| 1515 | 永正12 |
| 1516 | 永正13 |
| 1517 | 永正14 |
| 1518 | 永正15 |
| 1519 | 永正16 |
| 1520 | 永正17 |
| 1521 | 大永 1 |
| 1522 | 大永 2 |
| 1523 | 大永 3 |
| 1524 | 大永 4 |
| 1525 | 大永 5 |
| 1526 | 大永 6 |
| 1527 | 大永 7 |
| 1528 | 享祿 1 |
| 1529 | 享祿 2 |
| 1530 | 享祿 3 |
| 1531 | 享祿 4 |
| 1532 | 天文 1 |
| 1533 | 天文 2 |
| 1534 | 天文 3 |
| 1535 | 天文 4 |
| 1536 | 天文 5 |
| 1537 | 天文 6 |
| 1538 | 天文 7 |
| 1539 | 天文 8 |
| 1540 | 天文 9 |
| 1541 | 天文10 |
| 1542 | 天文11 |
| 1543 | 天文12 |
| 1544 | 天文13 |
| 1545 | 天文14 |
| 1546 | 天文15 |
| 1547 | 天文16 |
| 1548 | 天文17 |
| 1549 | 天文18 |
| 1550 | 天文19 |
| 1551 | 天文20 |
| 1552 | 天文21 |
| 1553 | 天文22 |
| 1554 | 天文23 |
| 1555 | 弘治 1 |
| 1556 | 弘治 2 |
| 1557 | 弘治 3 |
| 1558 | 永祿 1 |
| 1559 | 永祿 2 |
| 1560 | 永祿 3 |
| 1561 | 永祿 4 |
| 1562 | 永祿 5 |
| 1563 | 永祿 6 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1564 | 永祿 7 |
| 1565 | 永祿 8 |
| 1566 | 永祿 9 |
| 1567 | 永祿10 |
| 1568 | 永祿11 |
| 1569 | 永祿12 |
| 1570 | 元亀 1 |
| 1571 | 元亀 2 |
| 1572 | 元亀 3 |
| 1573 | 天正 1 |
| 1574 | 天正 2 |
| 1575 | 天正 3 |
| 1576 | 天正 4 |
| 1577 | 天正 5 |
| 1578 | 天正 6 |
| 1579 | 天正 7 |
| 1580 | 天正 8 |
| 1581 | 天正 9 |
| 1582 | 天正10 |
| 1583 | 天正11 |
| 1584 | 天正12 |
| 1585 | 天正13 |
| 1586 | 天正14 |
| 1587 | 天正15 |
| 1588 | 天正16 |
| 1589 | 天正17 |
| 1590 | 天正18 |
| 1591 | 天正19 |
| 1592 | 文祿 1 |
| 1593 | 文祿 2 |
| 1594 | 文祿 3 |
| 1595 | 文祿 4 |
| 1596 | 慶長 1 |
| 1597 | 慶長 2 |
| 1598 | 慶長 3 |
| 1599 | 慶長 4 |
| 1600 | 慶長 5 |
| 1601 | 慶長 6 |
| 1602 | 慶長 7 |
| 1603 | 慶長 8 |
| 1604 | 慶長 9 |
| 1605 | 慶長10 |
| 1606 | 慶長11 |
| 1607 | 慶長12 |
| 1608 | 慶長13 |
| 1609 | 慶長14 |
| 1610 | 慶長15 |
| 1611 | 慶長16 |
| 1612 | 慶長17 |
| 1613 | 慶長18 |
| 1614 | 慶長19 |
| 1615 | 元和 1 |
| 1616 | 元和 2 |
| 1617 | 元和 3 |
| 1618 | 元和 4 |
| 1619 | 元和 5 |
| 1620 | 元和 6 |
| 1621 | 元和 7 |
| 1622 | 元和 8 |
| 1623 | 元和 9 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1624 | 寛永 1 |
| 1625 | 寛永 2 |
| 1626 | 寛永 3 |
| 1627 | 寛永 4 |
| 1628 | 寛永 5 |
| 1629 | 寛永 6 |
| 1630 | 寛永 7 |
| 1631 | 寛永 8 |
| 1632 | 寛永 9 |
| 1633 | 寛永10 |
| 1634 | 寛永11 |
| 1635 | 寛永12 |
| 1636 | 寛永13 |
| 1637 | 寛永14 |
| 1638 | 寛永15 |
| 1639 | 寛永16 |
| 1640 | 寛永17 |
| 1641 | 寛永18 |
| 1642 | 寛永19 |
| 1643 | 寛永20 |
| 1644 | 正保 1 |
| 1645 | 正保 2 |
| 1646 | 正保 3 |
| 1647 | 正保 4 |
| 1648 | 慶安 1 |
| 1649 | 慶安 2 |
| 1650 | 慶安 3 |
| 1651 | 慶安 4 |
| 1652 | 承応 1 |
| 1653 | 承応 2 |
| 1654 | 承応 3 |
| 1655 | 明暦 1 |
| 1656 | 明暦 2 |
| 1657 | 明暦 3 |
| 1658 | 万治 1 |
| 1659 | 万治 2 |
| 1660 | 万治 3 |
| 1661 | 寛文 1 |
| 1662 | 寛文 2 |
| 1663 | 寛文 3 |
| 1664 | 寛文 4 |
| 1665 | 寛文 5 |
| 1666 | 寛文 6 |
| 1667 | 寛文 7 |
| 1668 | 寛文 8 |
| 1669 | 寛文 9 |
| 1670 | 寛文10 |
| 1671 | 寛文11 |
| 1672 | 寛文12 |
| 1673 | 延宝 1 |
| 1674 | 延宝 2 |
| 1675 | 延宝 3 |
| 1676 | 延宝 4 |
| 1677 | 延宝 5 |
| 1678 | 延宝 6 |
| 1679 | 延宝 7 |
| 1680 | 延宝 8 |
| 1681 | 天和 1 |
| 1682 | 天和 2 |
| 1683 | 天和 3 |

年号干支表

| 干支 |  |
|----|--|
| 甲子 |  |
| 乙丑 |  |
| 丙寅 |  |
| 丁卯 |  |
| 戊辰 |  |
| 己巳 |  |
| 庚午 |  |
| 辛未 |  |
| 壬申 |  |
| 癸酉 |  |
| 甲戌 |  |
| 乙亥 |  |
| 丙子 |  |
| 丁丑 |  |
| 戊寅 |  |
| 己卯 |  |
| 庚辰 |  |
| 辛巳 |  |
| 壬午 |  |
| 癸未 |  |
| 甲申 |  |
| 乙酉 |  |
| 丙戌 |  |
| 丁亥 |  |
| 戊子 |  |
| 己丑 |  |
| 庚寅 |  |
| 辛卯 |  |
| 壬辰 |  |
| 癸巳 |  |
| 甲午 |  |
| 乙未 |  |
| 丙申 |  |
| 丁酉 |  |
| 戊戌 |  |
| 己亥 |  |
| 庚子 |  |
| 辛丑 |  |
| 壬寅 |  |
| 癸卯 |  |
| 甲辰 |  |
| 乙巳 |  |
| 丙午 |  |
| 丁未 |  |
| 戊申 |  |
| 己酉 |  |
| 庚戌 |  |
| 辛亥 |  |
| 壬子 |  |
| 癸丑 |  |
| 甲寅 |  |
| 乙卯 |  |
| 丙辰 |  |
| 丁巳 |  |
| 戊午 |  |
| 己未 |  |
| 庚申 |  |
| 辛酉 |  |
| 壬戌 |  |
| 癸亥 |  |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1684 | 貞享 1 |
| 1685 | 貞享 2 |
| 1686 | 貞享 3 |
| 1687 | 貞享 4 |
| 1688 | 元禄 1 |
| 1689 | 元禄 2 |
| 1690 | 元禄 3 |
| 1691 | 元禄 4 |
| 1692 | 元禄 5 |
| 1693 | 元禄 6 |
| 1694 | 元禄 7 |
| 1695 | 元禄 8 |
| 1696 | 元禄 9 |
| 1697 | 元禄10 |
| 1698 | 元禄11 |
| 1699 | 元禄12 |
| 1700 | 元禄13 |
| 1701 | 元禄14 |
| 1702 | 元禄15 |
| 1703 | 元禄16 |
| 1704 | 宝永 1 |
| 1705 | 宝永 2 |
| 1706 | 宝永 3 |
| 1707 | 宝永 4 |
| 1708 | 宝永 5 |
| 1709 | 宝永 6 |
| 1710 | 宝永 7 |
| 1711 | 正徳 1 |
| 1712 | 正徳 2 |
| 1713 | 正徳 3 |
| 1714 | 正徳 4 |
| 1715 | 正徳 5 |
| 1716 | 享保 1 |
| 1717 | 享保 2 |
| 1718 | 享保 3 |
| 1719 | 享保 4 |
| 1720 | 享保 5 |
| 1721 | 享保 6 |
| 1722 | 享保 7 |
| 1723 | 享保 8 |
| 1724 | 享保 9 |
| 1725 | 享保10 |
| 1726 | 享保11 |
| 1727 | 享保12 |
| 1728 | 享保13 |
| 1729 | 享保14 |
| 1730 | 享保15 |
| 1731 | 享保16 |
| 1732 | 享保17 |
| 1733 | 享保18 |
| 1734 | 享保19 |
| 1735 | 享保20 |
| 1736 | 元文 1 |
| 1737 | 元文 2 |
| 1738 | 元文 3 |
| 1739 | 元文 4 |
| 1740 | 元文 5 |
| 1741 | 寛保 1 |
| 1742 | 寛保 2 |
| 1743 | 寛保 3 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1744 | 延享 1 |
| 1745 | 延享 2 |
| 1746 | 延享 3 |
| 1747 | 延享 4 |
| 1748 | 寛延 1 |
| 1749 | 寛延 2 |
| 1750 | 寛延 3 |
| 1751 | 宝曆 1 |
| 1752 | 宝曆 2 |
| 1753 | 宝曆 3 |
| 1754 | 宝曆 4 |
| 1755 | 宝曆 5 |
| 1756 | 宝曆 6 |
| 1757 | 宝曆 7 |
| 1758 | 宝曆 8 |
| 1759 | 宝曆 9 |
| 1760 | 宝曆10 |
| 1761 | 宝曆11 |
| 1762 | 宝曆12 |
| 1763 | 宝曆13 |
| 1764 | 明和 1 |
| 1765 | 明和 2 |
| 1766 | 明和 3 |
| 1767 | 明和 4 |
| 1768 | 明和 5 |
| 1769 | 明和 6 |
| 1770 | 明和 7 |
| 1771 | 明和 8 |
| 1772 | 安永 1 |
| 1773 | 安永 2 |
| 1774 | 安永 3 |
| 1775 | 安永 4 |
| 1776 | 安永 5 |
| 1777 | 安永 6 |
| 1778 | 安永 7 |
| 1779 | 安永 8 |
| 1780 | 安永 9 |
| 1781 | 天明 1 |
| 1782 | 天明 2 |
| 1783 | 天明 3 |
| 1784 | 天明 4 |
| 1785 | 天明 5 |
| 1786 | 天明 6 |
| 1787 | 天明 7 |
| 1788 | 天明 8 |
| 1789 | 寛政 1 |
| 1790 | 寛政 2 |
| 1791 | 寛政 3 |
| 1792 | 寛政 4 |
| 1793 | 寛政 5 |
| 1794 | 寛政 6 |
| 1795 | 寛政 7 |
| 1796 | 寛政 8 |
| 1797 | 寛政 9 |
| 1798 | 寛政10 |
| 1799 | 寛政11 |
| 1800 | 寛政12 |
| 1801 | 享和 1 |
| 1802 | 享和 2 |
| 1803 | 享和 3 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1804 | 文化 1 |
| 1805 | 文化 2 |
| 1806 | 文化 3 |
| 1807 | 文化 4 |
| 1808 | 文化 5 |
| 1809 | 文化 6 |
| 1810 | 文化 7 |
| 1811 | 文化 8 |
| 1812 | 文化 9 |
| 1813 | 文化10 |
| 1814 | 文化11 |
| 1815 | 文化12 |
| 1816 | 文化13 |
| 1817 | 文化14 |
| 1818 | 文政 1 |
| 1819 | 文政 2 |
| 1820 | 文政 3 |
| 1821 | 文政 4 |
| 1822 | 文政 5 |
| 1823 | 文政 6 |
| 1824 | 文政 7 |
| 1825 | 文政 8 |
| 1826 | 文政 9 |
| 1827 | 文政10 |
| 1828 | 文政11 |
| 1829 | 文政12 |
| 1830 | 天保 1 |
| 1831 | 天保 2 |
| 1832 | 天保 3 |
| 1833 | 天保 4 |
| 1834 | 天保 5 |
| 1835 | 天保 6 |
| 1836 | 天保 7 |
| 1837 | 天保 8 |
| 1838 | 天保 9 |
| 1839 | 天保10 |
| 1840 | 天保11 |
| 1841 | 天保12 |
| 1842 | 天保13 |
| 1843 | 天保14 |
| 1844 | 弘化 1 |
| 1845 | 弘化 2 |
| 1846 | 弘化 3 |
| 1847 | 弘化 4 |
| 1848 | 嘉永 1 |
| 1849 | 嘉永 2 |
| 1850 | 嘉永 3 |
| 1851 | 嘉永 4 |
| 1852 | 嘉永 5 |
| 1853 | 嘉永 6 |
| 1854 | 安政 1 |
| 1855 | 安政 2 |
| 1856 | 安政 3 |
| 1857 | 安政 4 |
| 1858 | 安政 5 |
| 1859 | 安政 6 |
| 1860 | 万延 1 |
| 1861 | 文久 1 |
| 1862 | 文久 2 |
| 1863 | 文久 3 |

| 西曆   | 年号   |
|------|------|
| 1864 | 元治 1 |
| 1865 | 慶応 1 |
| 1866 | 慶応 2 |
| 1867 | 慶応 3 |
| 1868 | 明治 1 |
| 1869 | 明治 2 |
| 1870 | 明治 3 |
| 1871 | 明治 4 |
| 1872 | 明治 5 |
| 1873 | 明治 6 |
| 1874 | 明治 7 |
| 1875 | 明治 8 |
| 1876 | 明治 9 |
| 1877 | 明治10 |
| 1878 | 明治11 |
| 1879 | 明治12 |
| 1880 | 明治13 |
| 1881 | 明治14 |
| 1882 | 明治15 |
| 1883 | 明治16 |
| 1884 | 明治17 |
| 1885 | 明治18 |
| 1886 | 明治19 |
| 1887 | 明治20 |
| 1888 | 明治21 |
| 1889 | 明治22 |
| 1890 | 明治23 |
| 1891 | 明治24 |
| 1892 | 明治25 |
| 1893 | 明治26 |
| 1894 | 明治27 |
| 1895 | 明治28 |
| 1896 | 明治29 |
| 1897 | 明治30 |
| 1898 | 明治31 |
| 1899 | 明治32 |
| 1900 | 明治33 |
| 1901 | 明治34 |
| 1902 | 明治35 |
| 1903 | 明治36 |
| 1904 | 明治37 |
| 1905 | 明治38 |
| 1906 | 明治39 |
| 1907 | 明治40 |
| 1908 | 明治41 |
| 1909 | 明治42 |
| 1910 | 明治43 |
| 1911 | 明治44 |
| 1912 | 大正 1 |



合羽刷り本  
かっぱずほん  
挿絵の上に、色を塗る部分を作りぬいた型紙を置き、筆や刷毛でその部分を塗って色を付けた版本。



畳み物  
たたみもの  
形状としては一枚であるが、比較的大きく、最初から畳んで収納することによって作られたもの。



折本  
おりほん  
紙を横に貼り継ぎ等間隔で山折りと谷折りを交互につけて折り畳んだもの。

# 和書の さまざま

国文学研究資料館 通常展示

和書すなわち日本の古典籍は、千二百年以上に及ぶ長い歴史を持ち、その種類の多様さと現存する点数の多さは世界的にも稀です。国文学研究資料館では、和書のさまざまな姿や特色を紹介するため、通常展示「和書のさまざま」を毎年行っています。本冊子は、その展示内容の概要を収録したものとして作成しました。ささやかながら、和書の豊かな世界への手引きとなることを願っています。

- \*本冊子の掲載資料はすべて国文学研究資料館所蔵です。
- \*項目番号は実際の展示と一致しますが、紙面の都合で一部の項目を割愛したため、番号が飛んでいる箇所があります。
- \*本冊子の掲載資料が実際に展示されているとは限りません。

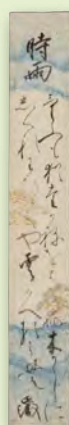


本文  
ほんぶん  
著作の中心部分。文字のほか、絵を含むこともあり、時には絵図だけから成ることもある。

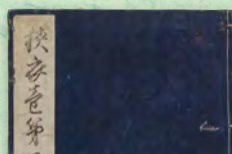
金欄表紙  
きんらんひょうし  
表面に金欄を張った表紙。



短冊  
たんざく  
和歌や連歌・俳諧の発句を書くための、細長い紙。



刷り題箋  
すだてせん  
題箋のうち、文字が印刷されたものを刷り題箋と言う。



# 和書の形態と素材

このセクションでは、〈物〉としての和書を考えるという観点から、和書が何を素材にしてどのように作られているかについて解説します。

## 【1】和書の装訂

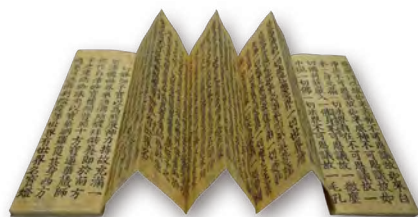
装訂とは、紙をどのように使って一つの本を作るかということで、主なものに以下の各種があります。

### 卷子本

紙を横に貼り継ぎ、左端に付けた軸を中心に丸く巻いたもの。右端に表紙を付けて全体をくるむ。

### 折本

紙を横に貼り継ぎ、等間隔で山折りと谷折りを交互に作って折り畳んだもの。



立川普濟寺版 大方広仏華嚴經

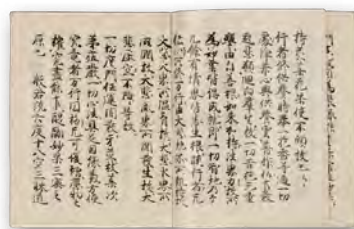
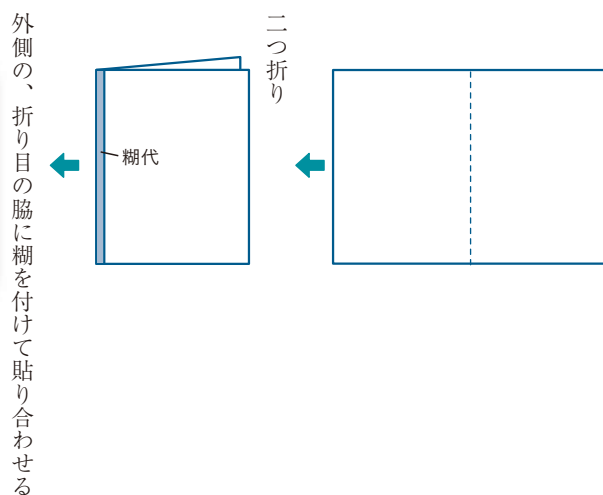


宗安小歌集



### 粘葉装

紙を二つに折り、外側の、折り目の脇を糊代として貼り重ねたもの。

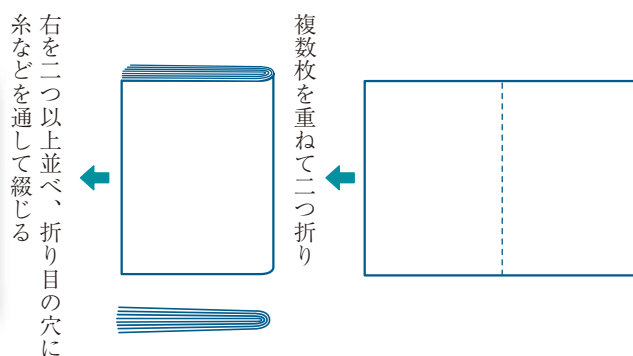


疏解文（疏抄一）



### 列帖装

紙を複数枚重ねて二つ折りにしたもの、二つ以上並べ、糸などで綴じたもの。

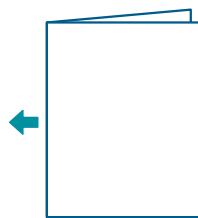


源氏小鏡

## 袋綴

紙を二つ折りにして重ね、折り目と反対側の端を糸や紙縫などで綴じたもの。

二つ折り



重ねて折り目と反対側の端を綴じる



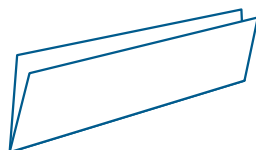
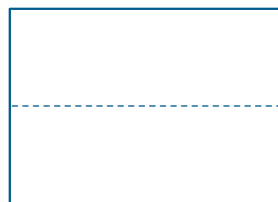
後撰和歌集



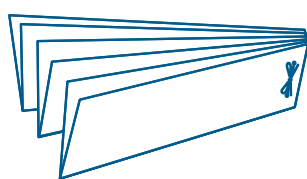
## 折紙綴

折紙（横長の紙を折り目が下になるように二つ折りにしたもの）またはその半截を重ね、右端を糸などで綴じたもの。

折り目を下にして二つ折り



重ねて右端を綴じる



慶長十八年八月十五日賦何路連歌

## 冊子本の綴じ方

冊子本を糸や紙縫などで綴じる場合、その通し方にいくつかの種類があります。

### 結び綴

冊子本の右端に上下各二箇所ずつ穴を開け、それぞれに紙縫や紐などを通して、結んで綴じたもの。



釈家官班記

### 四つ目綴

冊子本の右端に四箇所穴を開け、糸を通して綴じたもの。



善光寺道名所図会

### 五つ目綴

冊子本の右端に五箇所穴を開け、糸を通して綴じたもの。



善光寺道名所図会

### 康熙綴

四つ目綴の上下の穴と角の間に穴を開けて糸を通してしたもの。



芥子園画伝



一部拡大

## 【2】和書の書型

和書のうち冊子本には、一定の規格による大きさで作られているものがあります。ここでは、写本・版本それぞれの規格型の例と、規格外の例について説明します。

### 規格型の写本

#### 四半本

全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。全紙の四分の一の大きさなので、四半本（四つ半本）と言う。



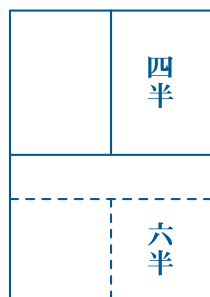
新百人一首

#### 六半本

全紙を長辺で三等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて冊子本としたもの。全紙の六分の一の大きさなので、六半本（六つ半本）と言う。また、形がほぼ正方形であることから櫛形本とも呼ぶ。



俊成卿九十賀和歌



### 大本系の版本

#### 大本

美濃紙の全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。



吾妻鏡

#### 中本

大本を長辺で二等分した大きさの、縦形の本。



頭書 徒然草

#### 美濃三つ切本

大本を長辺で三等分した大きさの、横形の本。



書籍目録 作者付大意

#### 横中本

大本を長辺で二等分した大きさの、横形の本。



紅梅千句

### 半紙本系の版本

#### 半紙本

半紙の全紙を長辺で二等分し、その一枚を二つ折りにしたものを組み合わせて縦形の冊子本としたもの。



絵本玉かつら

#### 小本

半紙本を長辺で二等分した大きさの、縦形の本。



本朝諸社一覧

#### 半紙三つ切本

半紙本を長辺で三等分した大きさの、横形の本。



素人庖丁

#### 横小本

半紙本を長辺で二等分した大きさの、横形の本。



万宝全書

### 規格外の版本

#### 縦長本

大本や半紙本に比べ、縦の比率が大きい（目安として横の二倍以上）冊子本。漢籍の和刻本や、中国の本（唐本）を真似た本などに見られる。



字集便覧（和字彙）

#### 特小本

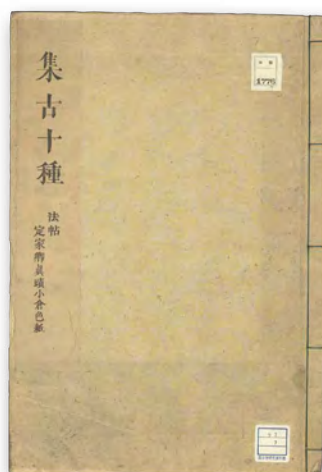
小本より小さいサイズの本。豆本・袖珍本などとも言う。



鳥づくし

#### 特大本

大本より大きいサイズの本。



集古十種

### 【3】和書の各部位

〈物〉としての和書は、様々な部位から成り立っています。

#### 表紙

和書において、本体部分の外側にあつてそれを覆う部分が表紙です。

##### 金欄表紙

表面に金欄を張った表紙。



奈良絵本うつほ物語

##### 紺地金泥表紙

紺色の紙に金泥で絵や文様を描いた表紙。



咸陽宮

##### 丹表紙

丹色（明るい朱）の表紙のことであるが、特に江戸時代初期に例の多い、光沢のある丹色の表紙を指す。



甲陽軍鑑

##### 栗皮色表紙

柿渋を塗り重ねて、栗の皮のような色にした紙を張った表紙。



老子虞齋口義

##### 刷り付け表紙

合巻の表紙に錦絵を刷り出したもの。上下二冊、または上中下三冊を並べると一つの図柄になるようにされている。



北雪美談時代加々見

##### 渋引き表紙

刷毛で柿渋を引いた紙を張った表紙。栗皮色表紙のように塗り重ねず、比較的淡い色。



装束之記

##### 艶出し文様

藍・朱・黒などに染めた紙を張った表紙を、文様を彫った木型の上に置き、表面から文様の凸部分をこすって艶を出したもの。



一部拡大



史記評林

##### 空押し文様

藍・朱・黒などに染めた紙を張った表紙に裏から文様を彫った木型を押し付け、文様を浮き出させたもの。



一部拡大



水雄岡志

## その他各部位

### 見返し

表紙の裏側のことで、表表紙の裏側を前見返し、裏表紙の裏側を後見返しと言う。

### 遊紙

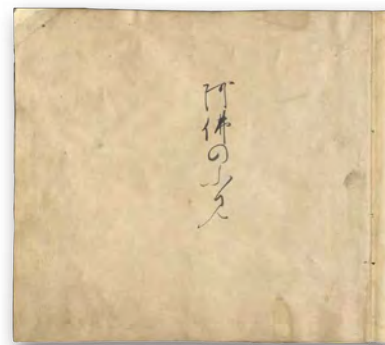
冊子本の本体部分において、前や後に、何も記載しない白紙の丁を二丁程度添えたもの。



三部抄

### 扉

冊子本で、本体部分の初めの方に独立に一丁を取り、書名を記したもの。



庭のをしへ (阿仏の文)

### 軸付紙

巻子本において、本紙の端に十分な余白がない場合など、軸を付けるための紙を貼り継ぐことがあり、軸付紙と言う。



ねんぶつ

### 版心

冊子本の版本において、一丁分の版の中央部分のこと。両側に縦線が引かれていることが多いので、その形状から柱とも呼ばれる。

### 咽

冊子本を見開きにした時の、中央線の両側の余白部分のこと。

### 小口

冊子本で、上・下・手前の紙の重ね目のこと。特に下小口を指すこともある。

### 背

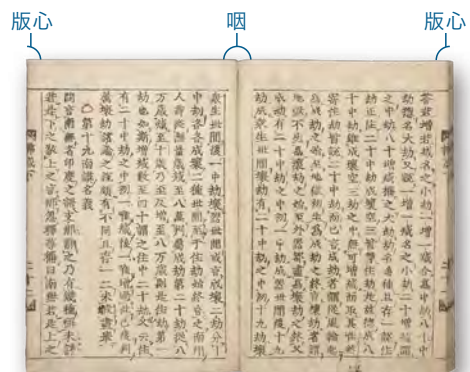
冊子本で、手前と反対側の側面。

### 角包み

主に袋綴の冊子本で、表紙を付ける前に綴じ代部分の上下の角を包むように貼られた、小さい布片。



群書類従



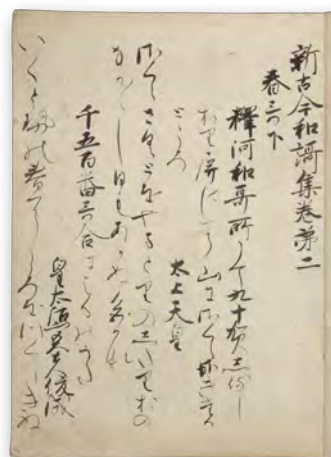
弘惑袖中策

## 【4】和書の料紙および附属事項

和書のうち、表紙以外の本体部分に使われている紙を料紙（本文料紙）と呼びます。写本の料紙には界（罫）が引かれることがあり、版本にも匡郭や界を持つものがあります。

### 鳥の子紙

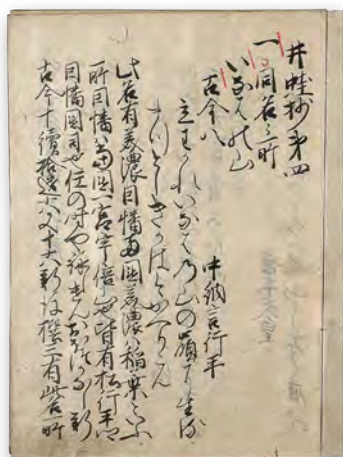
雁皮の樹皮を原料とする斐紙のうち、厚く漉いたもの。鶏の卵のような色であることから鳥の子紙と言う。楮紙に比べて表面がなめらかである。



新古今和歌集

### 薄様斐紙

雁皮の樹皮を原料とする斐紙のうち、薄く漉いたもの。鳥の子紙と同じく表面がなめらかで、透明感がある。



井蛙抄

### 楮紙

楮の樹皮を原料として作られた紙。和書の料紙として最も広く用いられる。（図版左二点）

### 【界・罫】

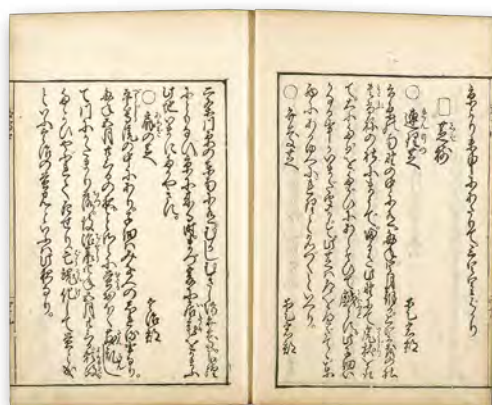
写本において、上下や行間を揃えて字を書くために引かれた線。版本にも界を持つものがある。



職原抄

### 【匡郭】

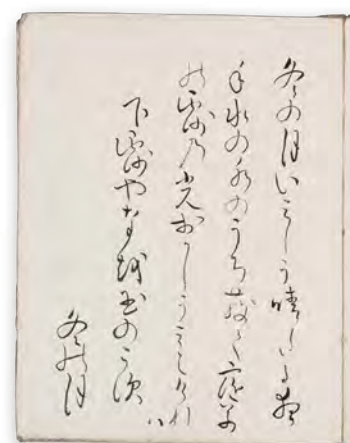
版本において、本文の周囲に引かれた枠線。



名所都鳥

### 間合紙

長さを襖障子の幅（約一メートル）に合わせて漉いた紙が間合紙であるが、斐紙に泥土を交ぜて漉いた泥間合紙が書物にも用いられた。



荒木田麗女句文

### 宿紙

反古紙を漉き返して作った紙。墨の成分によって薄墨色を呈する。



天道大福帳

## 紙背文書

卷子本・折本や紙を二つ折りにして使う冊子本で、既に何かが書かれていた紙を裏返して用いることがあり、その場合の元の文書を紙背文書と呼ぶ。



水鏡 ＊右の紙背



生仏二界不増不減事

## 〔5〕 附属品

和書は、それを保護するための袋や帙、箱などに納められることがあります。

### 包み紙

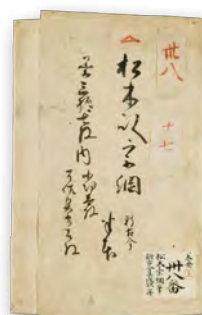
一点の本を包むほか、関連のある複数の本を一枚の紙で包んでまとめておくこともある。

### 袋

本を入れる筒状の紙。特に江戸時代中期以降の版本で、表面に書名・著者名・版元名などを刷った袋に入れて販売することがあった。



文鳳山水遺稿



新古今和歌集

### 帙

本を厚紙等でくるんで保護するもの。江戸時代までは、主に紙帙が用いられた。



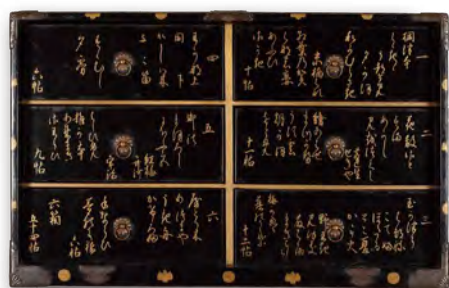
玉石童子訓

### 箱

桐や杉などの木箱が一般的で、素木のほか、漆を塗った塗り箱も用いられる。



源氏物語の箱



同右 ＊蓋を取って引出しの前面が見えている状態

## 〔6〕 版木

版本のうち整版本は、板に文字や絵などを彫った版木を用いて印刷されます。



魚貝譜



魚貝譜の版木

## II

# 和書の構成要素

このセクションでは、和書がどのような内容から成り立っているかという観点から、和書を内容的に構成するさまざまな要素について解説します。

## 【2】書名

和書の多くには、書名（題記）が記載されています。それらは表紙にあるもの（外題）と、本の内部にあるもの（内題）に大別され、内題はその位置によってさらに区別されます。

### 打付書き外題

表紙に直接書かれた外題を、打付書き外題と言う。和書では古くは題簽を使わず、表紙に打付書きされていた。



源氏物語 あげまき

### 刷り題簽

題簽のうち、文字が印刷されたものを刷り題簽と言う。



狭衣物語

### 刷り外題

表紙に直接印刷された外題を、刷り外題と言う。丁数の少ない、簡素な版本によく用いられた。



狂歌列仙画像集続編

### 扉題

内題の一種で、扉にあるもの。



風俗文選

### 書き題簽

外題や巻冊の順序を記載するため、表紙に貼る紙片や布片が題簽で、そのうち、文字が筆で書かれたものを書き題簽と言う。



源氏物語 糸あはせ

### 絵題簽

題簽のうち、書名のほかにその本の内容に関わる絵が描かれたものを絵題簽と言う。江戸時代中期以降、草双紙類に多用された。



鏡山誉仇討

### 見返し題

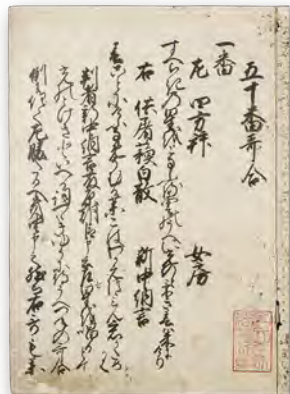
内題の一種で、前見返しにあるもの。



懷風藻

### 巻首題

内題の一種で、本文の冒頭にあるもの。狭義では、この巻首題を内題と呼ぶことも多い。



年中行事歌合

## 【4】本文・目録・著作情報

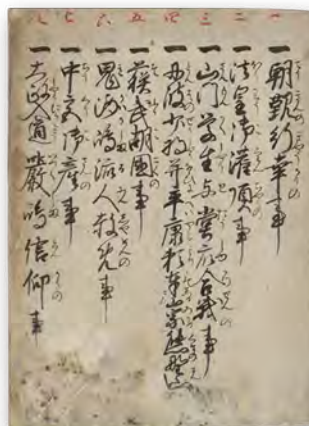
本文は、書物の内容構成の中心となる部分です。  
本文に先立って目録が置かれることがあり、また本文の前や後などに著者名ほか著作に関する情報が記されることがあります。

### 目録

その著作の章節名や項目名等を列記したもの。



\*左頁は本文の冒頭



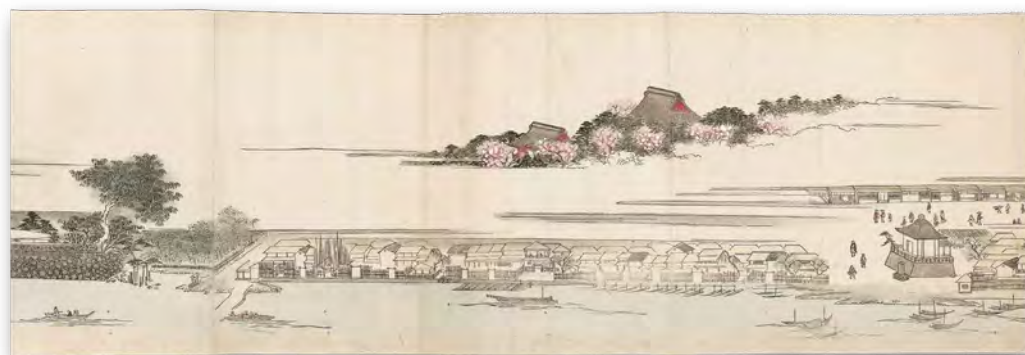
平家物語

### 本文

著作の中心部分。文字のほか、絵を含むこともあり、時には絵図だけから成ることもある。



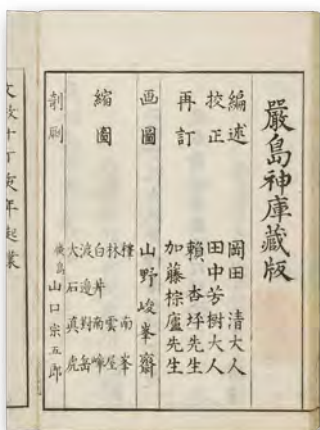
扇の草紙



隅田川兩岸一覽 \*題字と漢文の跋のほかは絵のみ

### 著作情報

巻首題の後（本文の直前）や本文の後、あるいは前見返し・題簽などにある、著者名ほか著作の成立に関する記事。



畿島図会



雑談集



明衡往来（雲州消息）

## 【5】奥書・識語

写本において、末尾に書写の年月日や書写者の名などを記したものが奥書で、写本に特有のものです。識語は、所蔵者などがその本や著作について書き入れた言葉で、写本にも版本にもあります。

### 奥書

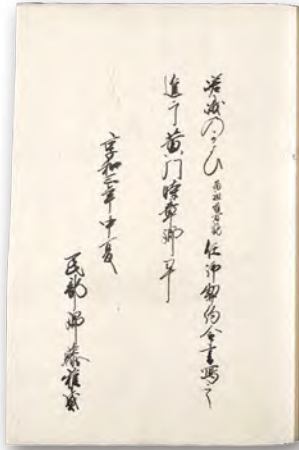
写本を書写した人が、年月日や名前、書写の事情などを末尾に記したものを。書写に用いた本（底本・親本）にあったものを本奥書、その本の書写に当たって書かれたものを書写奥書と言う。

### 本奥書

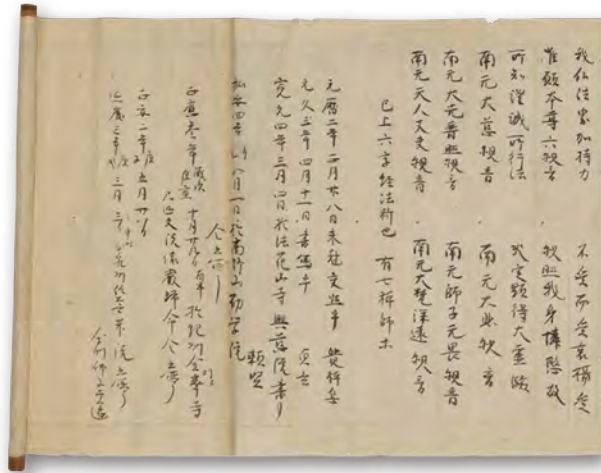
既存の写本を転写して新しい写本が作られる際、底本（親本）の奥書を転記することが多い。和書では底本のことを「本」と言うので、底本にあった奥書の意味で本奥書と言う。

### 識語

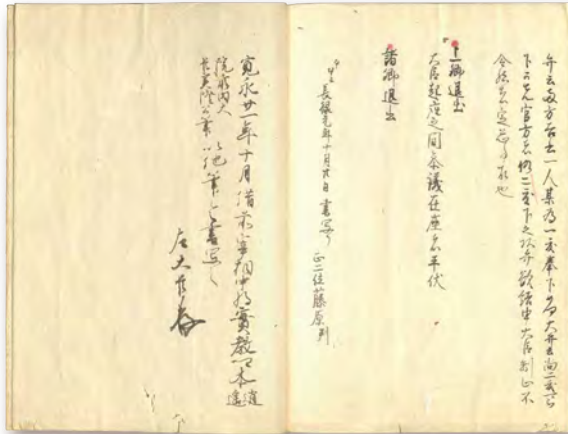
本の所蔵者などが、その本や著作について書き入れた言葉。奥書と同様本の末尾に書かれるほか、冒頭部や途中の余白に書かれることもある。



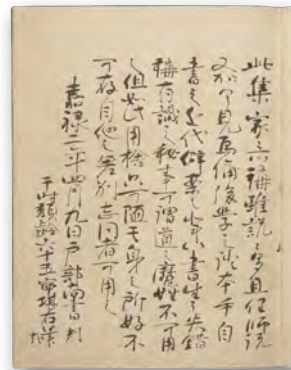
嵯峨のかよひ路



覚禅抄 六字明王経法



行類抄 \*長祿元年の奥書は本奥書



古今和歌集



三種歌合



源氏物語新古今和歌集ほか抜書

## 【6】刊記・広告

版本において、刊行の年月日や版元名などを記載したものが刊記です。末尾のほか、前見返しなどにあることもあります。広告は、版元による出版物の宣伝です。

### 本体部分末尾の刊記

刊記のうち、本体部分の末尾に記載されているもの。



京童

### 後見返しの刊記

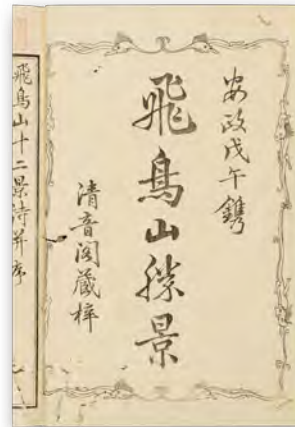
冊子本の後見返しに記載されている刊記。



俳家奇人談

### 前見返しの刊記

冊子本の前見返しに記載されている刊記で、版元名と年月（またはその一方）だけの簡潔な形が普通。



飛鳥山十二景詩歌并碑

### 広告

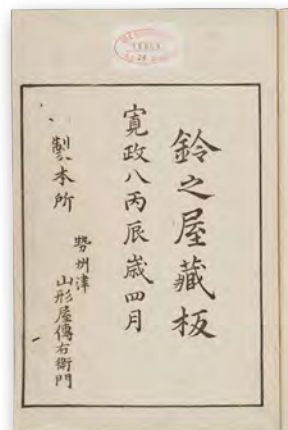
版元や販売した書店による、既刊や近刊の出版物の宣伝。



絵本以呂波歌

### 蔵版記・蔵版印

広義の刊記の一種で、蔵版者（出版権を持つ者）を記したもの。印記になっているものは、蔵版印と言う。



馭戒慨言



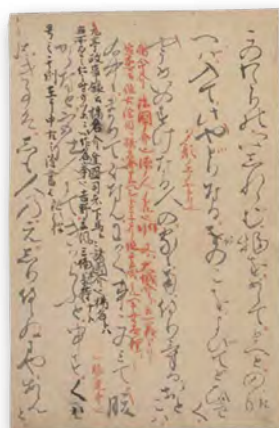
毛詩補伝 \*左頁は刊記

## 【7】書き入れ・付箋

読者が、注記や覚書などを本に直接書き込んだり、別紙に書いて貼り付ける  
ことがあり、前者を書き入れ、後者を付箋または貼り紙と言います。

### 書き入れ

漢文に訓点を付けたたり、行間や欄外などに  
注釈・補記・覚書などを書き込んだもの。



源氏物語（伊予切）

### 裏書

卷子本・折本などにおいて、裏面（紙背）  
に記入された注釈や補記の類。



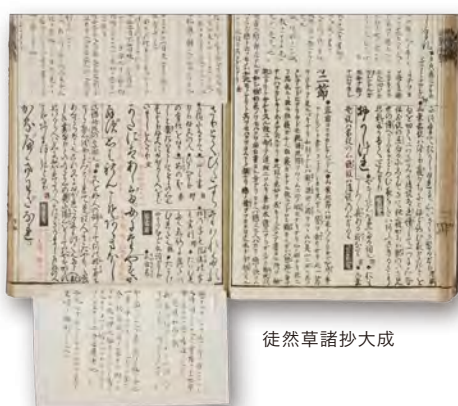
表白御草

### 付箋・貼り紙

注釈や補記などを、直接本に  
書くのではなく、別の紙片に  
書いて貼り付けたもの。



今鏡



徒然草諸抄大成

## 【8】所蔵署名・蔵書印

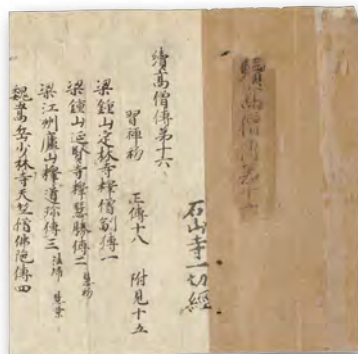
和書には、所蔵者が印を捺したり、署名を記すことが  
しばしばあります。

### 所蔵署名

所蔵者が、その  
所蔵であることを  
示すために本  
に記した署名。

### 蔵書印

所蔵者が、その  
所蔵であることを  
示すために本  
に捺した印。



続高僧伝 \*石山寺の蔵書印



和点類集



延文百首 \*脇坂安元の蔵書印



大鏡 \*田安家の蔵書印

# さまざまな本

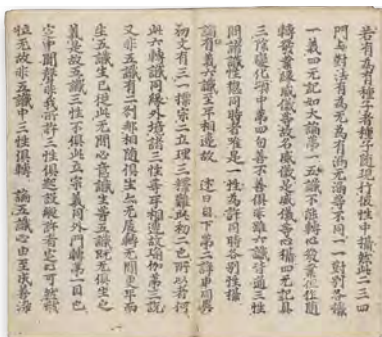
このセクションでは、千二百年以上の歴史を持つ和書の中から、各時代の写本や版本、特色のある本を選び、あわせて書物の周辺に位置する資料も紹介します。

## (1-2) 各時代の版本

日本の版本は、平安時代後半以降その事例が増えますが、遺品が多く残るのは鎌倉時代からです。

### 春日版

平安時代末期頃から奈良の興福寺で出版された本。しばしば刊記に春日の神への信仰が表明され、春日版と通称される。



成唯識論述記

### 高野版

鎌倉時代中期から高野山で出版された本。冊子本は枯葉装に装訂されることが特色。



大毘盧遮那成仏神変加持經

### 五山版

鎌倉時代中期から、京都と鎌倉の五山をはじめとする禅宗寺院で出版された本。



千字文註

### 勅版

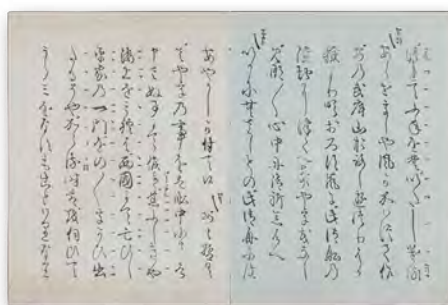
天皇が命じて出版させた本。後陽成天皇による文禄勅版と慶長勅版、後水尾天皇による元和勅版がある。



皇朝類苑 \*元和勅版

### 嵯峨本

本阿弥光悦の創始した光悦流の書体を持つ一群の版本は、嵯峨の角倉素庵の資金援助で出版されたと言われ、嵯峨本と通称されている。



船弁慶

### 木活字本

江戸時代後期から明治時代にかけて作られた、木製の活字で印刷した本。江戸初期の古活字本に対し、平仮名を使用せず漢字と片仮名のみであることが特色。



南蛮寺興廃記

## (2-1) 絵入り写本

写本の中には、美しく彩色された多数の絵を持つものがあります。本文とともに、絵を鑑賞することを目的に作られていると考えられます。

### 絵巻

物語や説話等を題材に、詞書と絵を交互に貼り継いで巻子本としたもの。平安時代以降多数製作された。



勸修寺八幡宮縁起

### 奈良絵本

室町時代末期から江戸時代前期にかけて多数製作された、主に物語を題材とした冊子体の絵本。主に列帖装の縦形本と袋綴の横形本がある。



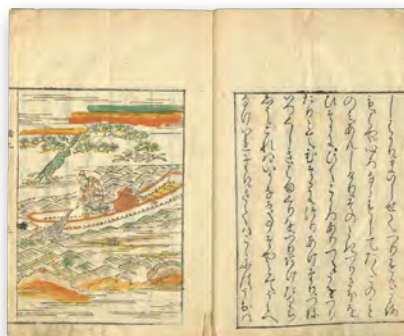
住吉物語

## (2-2) 絵入り版本

版本にも、絵を伴うものが少なくありません。ここでは、墨で刷った上に筆を用いて彩色を施した本と、色版を用いて多色刷りをした本の例を示します。

### 丹緑本

江戸時代初期に刊行された物語などの版本で、挿絵に筆で丹・緑・黄の色を付けたもの。



蛤の草子

### 合羽刷り本

挿絵の上に、色を塗る部分をくりぬいた型紙を置き、筆や刷毛でその部分を塗って色を付けた版本。



名婦伝

### 多色刷り本

複数の色版を用いて絵を印刷した本。



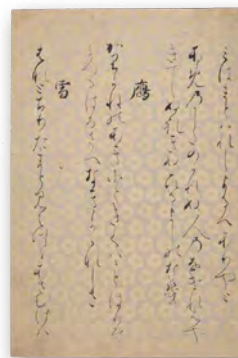
百さへぶり

## 【4】書物以外の資料

形態的に書物としては扱われませんが、書物に近接した所に位置する一群の資料があります。

### 古筆切

古写本の一部を、鑑賞などのために切り取ったもの。



菅原道真集断簡

### 短冊

和歌や連歌・俳諧の発句を書くための、細長い紙。



正徹短冊

### 掛軸

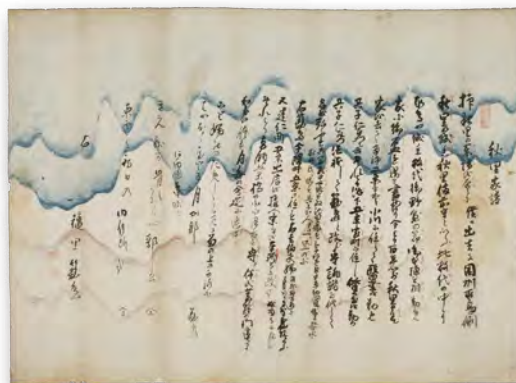
当初は、仏画を壁などに掛けて礼拝するために考案されたもので、後には絵や書などを掛けて鑑賞するためにも用いられた。



春日懐紙

### 一枚物

書状・文書や小型の地図など、一紙程度の、比較的小さいものを言う。



秋里家譜

### 畳み物

形状としては一枚であるが、比較的大きく、最初から畳んで収納することを前提に作られたもの。



富士見十三州輿地全圖 \*右上は畳んだ状態の表紙

## 展示室のご案内

### ●入場無料

### ●開室時間

平日午前9時30分～午後6時  
土曜午前9時30分～午後5時

### ●場 所

国文学研究資料館1階

### ギャラリートーク

当館教員が展示の説明を行います。

※展示会期、休室日、ギャラリートークの日程については、決まり次第、掲示・当館WEBページにてお知らせします。

発行日 平成30(2018)年12月25日

編 集 国文学研究資料館企画広報室

©人間文化研究機構国文学研究資料館



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL 050-5533-2910 <https://www.nijl.ac.jp>